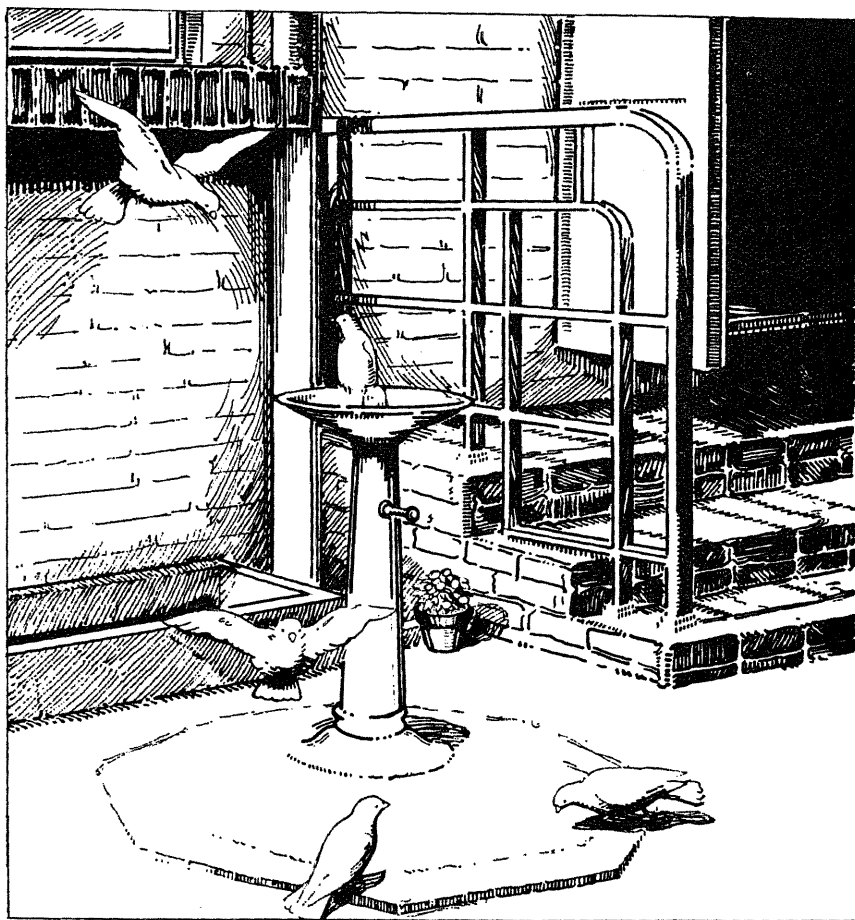


育教の兒幼

號二第 號月二 卷五十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

學 校 體 育 叢 書

東京高等師範學校教授 文部省檢定試驗委員 大谷武一 著 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

第二學 校 體 育 概 論

文檢受驗者 唯一無二の 必讀要書!!

先づ學校體育の目的論から書き起し、體操科の各種教材を文部省體操教授要目に準據して説明し、課外指導、課外體操、(各所の社會的體操)を述べ、殊に瑞典式醫療體操の實際は、現今漸やく暗ましい各種矯正運動の原理並に實際を示すものである。次いで國際的の體育運動についてソコル運動、オリムピック競技を舉げて、體育家のみならず、一般國民に對する強い反省と努力を求めてみろく競技を最けて、金澤市の體育施設は、各體育家の參考ともなり刺戟ともなる事であらう。

東京女子高等師範學校助教授 宮田 覺 著 第一學 校 體 操 の 教 授 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

文部省檢定試驗委員 三浦 ヒロ 著 第三 行 進 遊 戲 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校助教授 安田 弘 著 第四 運 動 の 施 設 經 營 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

大日本體育學會理事 二宮 文 著 第五 中 心 體 操 指 導 法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校助教授 中島 海 著 第六 小 學 校 體 育 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

附屬小學 藤村 トヨ 著 第七 學 校 體 育 論 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

日本女性體育研究會長 佐々木 等著 第八 球 技 指 導 法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校教授 野口 源三 著 第九 陸 上 競 技 指 導 法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校教授 森本 義一 著 第十 學 校 教 練 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

陸軍省師範學校教務局 森本 義一 著 第十 學 校 教 練 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

神戶商科大學 師範部 多田 德雄 著 第二 排 球 競 技 法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

大日本排球協會 理事 事 多田 德雄 著 第二 排 球 競 技 法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

發行所 東京市牛込區 中 文 館 書 店 電話 振替 東京 三三三 八三三 四二二 七二五 番

生徒募集

本科生 四十名
研究生 若干名

願書受付 昭和九年十二月一日ヨリ
昭和十年三月二十日迄
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來二十年。
大正五年東京市麴町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集

募集人員 百名

出願期限 自二月一日 至三月末日

無試験檢定ノ特典アリ

規則書ハ二錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三丁目二九八聖心學園内
西武電車及青バス妙法寺口下車(電話中野二四八四)

東京保姆專修學校

校長 ジー・マイエ

生徒募集

本科生 五十名 書間の授業です

聴講生 十名 夜學ではありません

出願期日 三月末日限り

規則請求 二錢切手封入して御請求下さい

東京目白保姆學校

校長 和田 實

位置 淀橋區下落合三丁目一、三八八

(目白驛下車西方ニ約五丁)

電話 落合長崎五五九番

生徒募集

一本 科 七十名

一研究 科 若干名

右 募 集 ス

出願期限 二月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

授業時間

自 午後一時

至 午後五時

保姆科生徒募集

無試験檢定認可

一、募集人員 四十拾名

一、出願期日 自二月一日 至三月卅一日

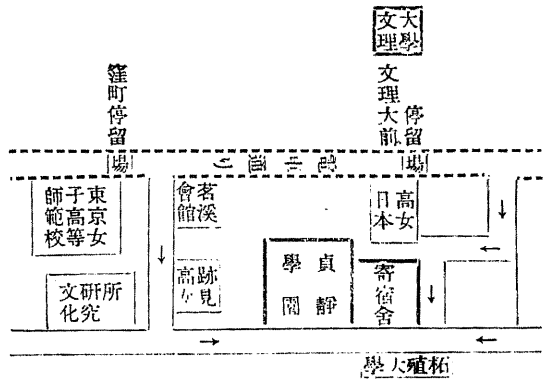
一、本所の特長

- 1、非常に環境に恵まれたる閑静な然も便利な所 附近に各大學兩高師あり優秀なる教授揃ひ
- 2、理想的幼稚園ありて充分なる實習の實を挙げしむ
- 3、他に類例なき新研究としてリトミックの教授をなす (巴里歸朝せる先生)

東京市小石川區大塚町六八番地
(市電文理科大學前又ハ大塚窪町下車)

貞靜幼稚園保姆養成所

所長 高橋滿喜



童話募集

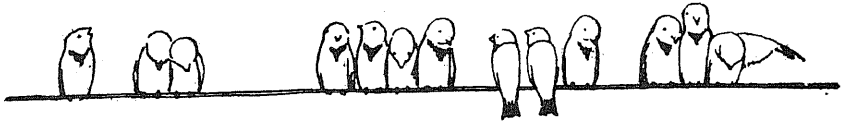
新年號で發表致しました募集童話皆様御力作を續々お寄せ下さいます、
締切が迫りました、どうぞ廣く多數の方々御應募下さいませ。

日本幼稚園協會

募集規定

- 一 應募作は幼兒童話であること、内容は任意但し在來の童話の改作はお受けしませぬ。必ず創作のこと(舊作にてもよろし)
 - 一 應募篇數任意
 - 一 原稿用紙にペン書のこと(挿繪、カット等入れるも可)尙、原稿は一切返却せず
 - 一 應募者は宿所氏名(誌上匿名隨意)、奉職園(校)名明記のこと
 - 一 宛名 日本幼稚園協會童話研究部
 - 一 締切 昭和十年二月末日
 - 一 選 本協會童話研究部委員
- 入選作若干は本誌に掲載の上帶留或はピンを賞品として贈呈致します

尙御不明の點は往復がきにて本協會にお問合せ下さい



幼 児 の 教 育 第 二 號 第 三 十 五 卷

— (次 目) —

口 繪	倉 橋 惣 三 (一)
卷 頭 (にじみ出る眞實性)	淺 黄 俊 次 郎 (二)
小 學 校 が 望 む 幼 児	伊 藤 堅 逸 (六)
幼 稚 園 の 圖 畫 及 手 工 に つ い て (二)	葛 原 齒 (二七)
幼 稚 園 々 歌 も の が た り (下)	
來 月 の お 節 句 に 準 備 し て	山 田 德 兵 衛 (二九)
生 き て 來 た 雛 祭	水 谷 年 惠 子 (三)
雛 十 句	
幼 稚 園 の お 雛 祭	(三)
幼 稚 園 に 慣 れ る ま で	久 仁 子 の 母 (四)
兒 童 心 理 學 文 獻 抄 (四)	牛 島 義 友 (五)
小 さ い 猛 者 連	菊 池 ふ じ の (六)
あ な た の 机 上 へ	(六)
二 三 月 の 仕 事	大 岩 金 (七)
童 王 女 の 猫 の 話	中 野 好 夫 (七)

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編 (新刊)

本邦音樂教育史

菊版上製、箱入全一冊、定價 參 圓、送料拾六錢

我國に於ける音樂教育の發達は紆餘曲折幾多の變遷を重ね、多くの先輩は克く今日の隆盛を建設した。本書は此の史實を正して辿り、發展の經路を確かに究め正しき音樂教育發達史を詳述す。書中世に現はれざる貴重なる資料挿畫を以つてし興味又駭々たり。

東京音樂學校講師 草川宜雄先生著 (新刊)

最新音樂教育學

菊版上製、箱入全一冊、定價參圓八拾錢、送料拾八錢

本書は先生畢生の大著述にして、音樂教育學の權威、書中先人未踏の教授論、方法論は教育音樂關係諸氏の指針たるべく、又蘊奥を究めしむるであらう。斯界の研究者、文檢志願者の好伴侶燈明臺と信する。

新尋常小學唱歌文部省檢定濟全六 定價各冊 拾二錢

新高等小學唱歌文部省檢定濟全二冊 定價各冊 拾五錢

新尋常小學唱歌伴奏及解說全六冊 定價各六拾錢 送料六錢

新高等小學唱歌伴奏及解說全二冊 定價各九拾錢 送料八錢

兒童唱歌 新編集全六冊 定價各拾六錢

子供の舞踊卷一・二 低學年用 定價各金六〇錢 卷三・四 高學年用 定價各金六一錢 六一錢

武藏野音樂學校長 福井直秋著 兒童唱歌七十一曲集 定價 金壹圓廿錢 送料 八錢

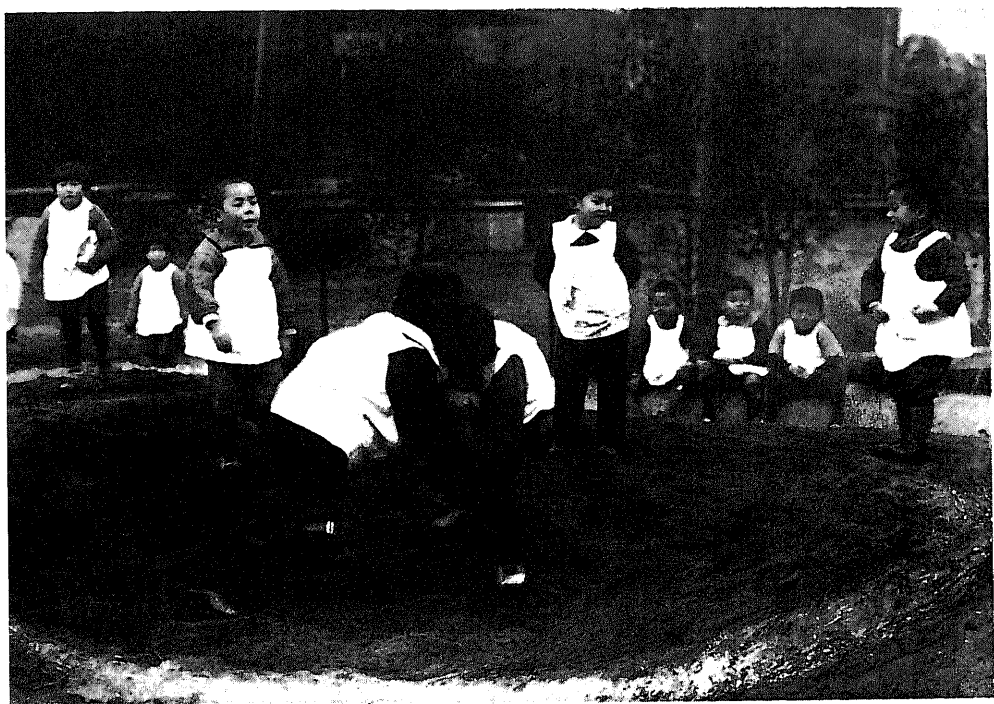
小學の教材の撰擇に就て 定價 金四拾五錢 送料 四錢

林松木先生著 教授法附初等合唱曲 四六倍 上下各金八十錢 上製 送料金八錢

時代の要求に鑑み、現今小學校に於て愛唱されつゝある歌曲を編曲し初等教育音樂に寄與せんとす。合唱曲少き折柄貴重なる資料と信する。廣く御試唱を乞ふ。

東京市神田區 錦町三ノ十一 音樂教育書出版協會

振替東京六四七七〇番 電話神田(25)八三三番



ノ
コ
ツ
タ
ノ
コ
ツ
タ

(園 稚 幼 屬 附)

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 年 二 月

に じ み 出 る 眞 實 性

あなたのもつてゐられる貴いもの、美しいもの、賢いものを、みんなそのまゝに受ける力は子ぎもにはない。その意味で、折角のあなたの感化も幼児には及ばないものが多いかも知れない。そのまた逆は、あなたのもつてゐる缺點をも、幼児の前に或る程度までは隠し、つくらふことが出来るかも知れない。素より意識してそうする譯ではないが、そういふことで濟む場合も少なくあるまい。

たゞ一つ、あなたのもの眞實性、あなたの性格の底からにじみ出る眞實性だけは、そんな幼い子ぎもの心にも届かすにはゐない。方法でもなく術でもなく、われ知らず迸り出る眞實性こそは、幼い子ぎもの心に、強い深い感化を與へずにはゐない。その逆に、若し、あなたに眞實性が缺けてゐる時は、それがまたそのまゝに、幼い子ぎもの心を不眞實にせずしては已まないであらう。

眞實性の強い先生の傍にある一年でも半歳でも、この位幼い子ぎもの性格の上に幸福なことはない。或る日、或る時、ふこにじみ出るあなたの眞實性、それこそ、幼い子ぎもへの一生の感化となるものである。

(倉橋惣三)

小學校が望む幼児

東京女子高等師範學校
附屬小學校

淺 黃 俊 次 郎

一

小學校は國民教育の場所であり基礎教育の道場でありますから、入學適齡兒童であつて且普通の心身發達をしてゐる兒童ならば、好き嫌ひなく小學校は之を歡んで迎へ入れなければなりませんのであります。ですから小學校が如何なる幼児の入學を望むかといふやうなことは、小學校の本質を使命から見ても、實は口にすべきものではないと私は考へるものであります。即ち小學校は、その好むを好まざるを、入學すべき幼児を迎へ入れるといふことは義務であり、且つは權利でもありますのであります。特に普通の公立小學校はさうした立場にあるわけであります。

二

幼児は入學までに、或は家庭だけで育てられ、或は幼稚園や托兒所で保育されるのであります。幼稚園の保育を受けた幼児のみを小學校が望んで、他は之を忌み嫌ふといふやうな風が假りにもあつてはならないのであります。

しかし乍ら、幼稚園の保育といふものが、より教育的な施設のもちに行はれ、且つ眞に正しい保育が行はれるものであれば、小學校としては、幼稚園の保育を受けた幼児を迎へ入れるに越したことはないのであります。

小學校は國民教育として、國民的基礎教育として國民たるの人格を陶冶するこいふ目的使命を堅持して教育するものではあります、しかし子供の個性、素質こいふものを度外視して畫一的に、同じ尺度を當て込んで教育したり、或は同じ型にめ込んで教育したりすべきものではないのでありますから、腕白な幼児でも、内氣で無氣力な子供でも、何んな子供をでも快く引受けて、その子供の育ち、素質、個性の上に、目指す國民的人格の陶冶法を講じて行かねばならないのであります。

故に、こいふ幼児でなければ小學校教育としては困るなごご考へてはいけなわけでありまして、家庭や幼稚園やが、幼児の保育についてより良く方法を講じることには誠に望ましい限りであるけれども、小學校教育の爲に、何ういふ子供を作つて呉れど幼稚園や家庭に要求することは、實は間違つた態度ではないかと思ふのであります。

例へば我が女高師附屬小學校の教育が、作業主義の教育法を實施してゐるところから、當校に入學する幼児が凡て作業教育に適する性格のもでなければならぬだらうなごご考へるならば、それは大いなる誤りなのであります。眞の教育は一層子供の良き芽を培ひ育て、ふき出さずに居る芽をふき出させ、缺陷を矯正し、かくして國家、社會、文化に貢獻し得る力を有つ人格の陶冶を目指すべきなのであります。我々の作業教育なごもその眞の教育法なのであります、活力の足りない子供に活力を有たせ、社會性の不足な子供に社會性を培ひ、内氣な子供を發動的な子供に育てるこいふ風に、出来るだけ個性、素質に立脚して眞の教育を施すのであります。

教育法に子供をほめ込むのは大なる誤りであります。子供に教育法を講じて行くべきであります。これは幼稚園の保育に於ても同様であるべき筈であります。かう私共は考へなければならぬものであらうと思ふのであります。こゝに私共の學校の低學年教育法の綱要を一寸御紹介申しておきたいと思ひます。

低學年ハ低學兒童ノ特殊性ニ立脚シテ其ノ生活ヲ指導シ 個性ヲ尊重シ 社會性ヲ陶冶シテ 獨立ノ個人竝ニ社會人タルノ素地ヲ養フヲ以テ要旨トス

これが尋一二學年教育法の要旨であります。そしてその指導の方法としては

生活ノ指導ハ合自然ノ方法ニヨリ 直觀ニ發スル一系列ノ活動ヲ輔導シ 以テ生活ノ總合的全體教育ヲ行フ

其ノ形式ハ遊戯及ビ作業トシ 作業題材ハ兒童ノ生活環境内ニ於ケル自然ノ事物現象 文化的社會的ノ事物現象ヨリ採ル 遊戯ハ兒童ノ自發活動ヲ尊重シ 身心ノ發達ニ適合セシム

全體教育ノ指導課程ハ次ノ如シ (一)直觀 (二)説話 (三)作業 (四)發表 (五)遊戯

かくして學級は之を兒童の共働社會たらしめ、教室は之を兒童の生活場所たるに適せしめるのであります。そして教師は、幼稚園の如くに、始業より終業に至るまで、絶えず兒童と共に生活し、且つ共働するのであります。幼兒の家庭生活、乃至は幼稚園生活に接近させて然も一段々々々生活を擴充させて行くのであります。

四

かう考へて参りますと、噂に時折り聞くやうな、某々幼稚園が自己の評判を氣にする餘り、小學校入學後の成績を誇りたいところから、主として知的方面の注入教育をなし、學科的な成績のみを問題にするとか、或は或る種の臭味のある方法をして、幼兒の自活的活動性を摘み取つてしまふさういふ如きは、最も望ましからざるころであります。

概念的な大人らしい言葉を教へ込み、或は概念的な物知り者に子供に育て、あつて、然も入學早々から教師の鼻息ばかり氣にして行動するやうな、さうした子供を見受けますが、それは幼兒の保育さういふ點に於て間違つたものであるし、小

學校にしても望ましくないことでもあります。誤つた保育を受けた子供は望ましくないのであります。

素朴で、素直で、元氣な子供の望ましいことは言ふ迄もありません。子供は元來、素朴なものであり、活動的である筈であります。言ひつけられなければ、自らは何事にも手を出さない、活動しないこいふ子供にされては困るのであります。或る型にはめ込まれて固めさせられた子供の教育は難かしいのであります。合自然的に素朴ですくくこ伸びやかに育てられてゐる子供は、柔軟性、陶冶性に富んでゐるから教育し易いのであります。

ですから、元氣で快活で、自發活動性に富んでゐる子供に保育されることは、幼兒の保育され自體に適合し、然も小學校の望むところでもあります。

幼稚園の圖畫及び手工に就いて (二)

お仕事に對する統計的觀察

八王子幼稚園長

伊 藤 堅 逸

二、仕事のしぶり

仕事のしぶりに云へば種々なる方面から見ることが出来る、併しこゝには保育カードの上で觀察し得られることだけに就いて云ふのである。それで先づ保育カードのこゝを明かにしなければならぬのであるが説明を簡單にする爲めに保育カードそのものを左に掲げる事にする。

此の保育カードは感覺練習、恩物及び圖畫と手工の三つの部分になつてゐるが、こゝでは圖畫と手工の部分の説明だけで足るのであるから他の二つの部分については何も云ふ必要はない。

さて其種目として圖畫、塗繪、ぬいじり、組紙、織紙、きり紙、折紙、厚紙細工、豆細工、粘土細工、貼紙細工、木工細工等がある此れらは一般に幼稚園で行はれてゐるもので勿論此の外にもきびがら細工とか自然物利用の種々なる細工などがあるが此のカードにはそれらは皆其他の中に入れるやうにしてゐる。そして上に一ヶ月の日附があつて出席缺席を取るやうにし圖畫をしたなら其日の日附の下の圖畫の段に斜線を入れて其日に圖畫をしたと云ふ印をする、又同じ日に圖畫の外に折紙をしたなら矢張り同じ日附の下の折紙の段にも斜線を入れる。三種目をすれば三つの斜線で印がつくことになる、若し

るわけである。

斯る方法によつて得たカードを見るに一見して直ちに印の付き方に種々異なつたものゝあることが見られる。そして各兒の仕事ぶりが其印の付き工合によつて知られるのである。それで其印の付き工合を左の如く七種の型に分類して見たのである。

一、A型

仕事に繼續性があり、そして一つの主なるものを選んで常にそれをしてゐるが又他にも幾つかのものを選んでゐる。

二、B型

仕事に繼續性はあるが一つの手工又は圖畫の外は殆んどしてゐない。

三、C型

一つのことを二三回繼續して他に轉じてゐる、仕事には繼續性があるが或る一つのものに対する繼續性はない。

四、D型

特に自分の好むものがない、それ故毎日するものが變つてゐる、併し仕事には繼續性が充分認められる。

五、E型

特に好むものが二種以上あつて、その二種以上のものを繼續的にやつてゐる、故にB型を單線的にすれば此れは複線的な型であるに云へる。

六、F型

これは一時熱心であつていつの間にか不熱心になる型で、これにはA型のもあるD型のもある。又その他の型もある。

七、G型

これは仕事に對する興味が至つて少なく従つて勤勉性の薄い型で、仕事平均回數〇・三以下のものである。

さて、分類法は斯く定めたのことは定めたが實際分類する段になるに相當考へさせられることが多い。中にはD型に屬すべきかC型に屬すべきか、或はA型に屬すべきかE型に屬すべきかなど殆んど判断し兼ねるものもある。殊に仕事の回數の少ないものであるに分類は中々困難である。だから餘り曖昧なものには疑問符をつけ、やゝはつきりしたものにだけ分類符號をつけることとしたのである。斯くして昭和六年度に於て左の如き表を作るこゝが出来た。表中Hは一回も手工

第七表

		三月	二月	十二月	十一月	十月	七月	六月	五月	
チューリップの組	男	CC	DD	AA	AC	AE	DD	AD	GD	
	女	1	DD	AA	AA	AA	AA	DD	DA	AA
		2	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		3	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		4	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		5	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		6	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		7	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		8	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
		9	DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA
10		DD	AA	AA	AA	AA	DD	AA	AA	
バラの組	男	AA/A	DD/A	BGD/A	BAA/C	BDA/D	BAD/D	AAD/D	AGB/D	
	女	11	DF	?	ADE	CD	DD	DD	AAA	A?
		12	FA	AA	EA	DA	DA	DA	AA	AA
		13	AD	AA	BA	BA	BA	BA	AA	AA
		14	D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA
		15	AD	AA	BA	BA	BA	BA	AA	AA
		16	D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA
		17	D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA
		18	D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA
		19	D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA
20		D	AA	AB	AB	AB	AB	AA	AA	
スマイレの組	男	DG?G	ADD	DFC?	D?CC	DCB				
	女	21	AD	A?	A?	AA	AA			
		22	AG	BA	CF	EA	EA			
		23	GA	BD	FG	AD	AD			
		24	AA	DD		DA	DA			
		25	GA	DA		AA	AA			
		26	AA	AA		EA	EA			
		27	AA	AA		EA	EA			
		28	AA	AA		EA	EA			
		29	AA	AA		EA	EA			
30		AA	AA		EA	EA				

をしなければならぬもの、餘線は缺席の符號である。組はチューリップ、バラ、スマイレの三組になつてゐてチューリップは保育二年の組でバラは當年初めて幼稚園に入園したものゝ組である、此二組は何づれも學齡に達する幼稚園の大きい組である。スマイレはまだ學齡に達しない小さい組である。此のスマイレの組では六年度は

五月から七月まで保育カードを使用しなかつたため其間の統計を作る材料は缺けてゐる。123の数字は幼児の氏名番號である。昭和六年度の幼児數は第一表に出てるやうに四十二名であるが、中途退園したものと中途入園したものをこゝでは省いたため三十五名となつてゐる。

これを見るに同じ子供でも常に同じ仕事のしづりをするとは限らぬ。例へばチュエリッブの男の1は五月にGであつたが六月にAになり七月にDになり十月から十二月までAで二月と三月はDとCになつてゐる。又比較的よく揃つてゐるの

第 八 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チュ エ リ ッ ブ	男	5		3	6	1		1			16
	女	36	4	5	18		1				64
	計	41	4	8	24	1	1	1			80
パ ラ	男	12	5	1	10			2		1	31
	女	29	8	2	9	3	6	7	5	5	74
	計	41	13	3	19	3	6	9	5	6	105
ス ミ レ	男	1	1	4	8		1	2		3	20
	女	16	3	1	5	2	2	3		2	31
	計	17	4	5	13	2	3	5		5	51
合	計	99	21	16	56	6	10	15	5	11	239
	%	41.4	8.8	6.7	23.4	2.5	4.2	6.3	2.1	4.6	100

もある、例へばチュエリッブの女の3と5と6と7やパラの女の17と19などは皆可成りよく揃つてゐる方である。それで此の表により一見して比較的的精神に變動の多いものと比較的變動の少ない落付きのある性格の子供を見分けることが出来るであらう。それにAにしてもBにしても仕事のしづりには必ずそれらに子供の性格が表はれてゐるのであるから仕事の符號によつて子供各々の性格をも大體判断することが出来るのである。尤も仕事づりが常に變化してゐるに據り所がないわけであるから、然う云ふ子供は全體として變動し易い精神状態にあるものと見るべきが出来る。

さて此の仕事づりを統計的に一應整理して見るに即ち上表の如くなる。

此れによるに仕事づりの中で最も多いのは四一・四%のAで、此れに次ぐものは二三・四%のDであつたは何づれもADよりもずつと少なくなつてゐる。

AとDを合せるに全體の六四・九で殆んど六割五分をしめてゐることになる。

第九表 (五年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
大きい組	男	55	2		15	3			1	8	84
	女	31			39	17				8	95
	計	86	2		54	20			1	16	179
小さい組	男	10	1		4	5				13	33
	女	28			18	11		1		8	66
	計	38	1		22	16		1		21	99
合 計		124	3		76	36		1	1	37	278
%		44.6	1.1		27.3	13		0.3	0.3	13.4	100

第十表 (八年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チップ	男	35	6		18	1				3	63
	女	20		2	14	9				2	47
	計	55	6	2	32	10				5	110
バラ	男	16	5		2	5			1	2	31
	女	32	5	1	7	2				3	50
	計	48	10	1	9	7			1	5	81
スマイル	男	25	12		7	3		1	2	7	57
	女	35	13	2	17	7				13	87
	計	60	25	2	24	10		1	2	20	144
合 計		163	41	5	65	27		1	3	30	335
%		48.7	12.2	1.5	19.4	8		0.3	0.9	9	100

残の三割五分の中に他の仕事ぶりが全部含まれてゐるのであるが其中ではBが最も多く、それに次いでC G F Eを云ふ順になつてEは仕事ぶりが少しては最も少ない型となつてゐる。所で此れを他の年度に於ける仕事ぶりと比較すれば如何、次に五年度と八年度の統計を掲げて見ることにしよう。七年度は仕事回数が少なく従つて仕事ぶりには不明な者が多いからこゝには省くことにする。

この二年度の統計のいづれを見ても最も多いのは矢張りAで、Aに次ぐものはDである。其れはさきにかゝげた六年度の統計と全く同じである。AとDを合せる三八年度では六割八分となり、五年度では七割二分となる。此の點に於ても六年度の六割五分に比して略々似た割合を見るこゝが出来。それでAは各年度を通じて第一位にありDは第二位であるが、B Eに至つては年度によつて異つて、六年度にはDに次ぐものはBであつてEは極めて僅かしかかつたが、五年度ではEがDに次いで可成り多く出でゐるがBは一・二で極く少ない。所が八年度ではDに次ぐものはBで二・二となりEは第四位を占めてゐる。さればA Dの位置は各年度

第 十 一 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ	男	31.25		12.50	37.50	6.25		6.25			100
	女	56.25	6.25	7.81	28.13		1.56				100
バラ	男	38.71	16.13	3.23	32.26			6.42		3.22	100
	女	39.19	10.81	2.70	12.16	4.05	8.11	9.46	6.76	6.76	100
計	男	36.17	10.64	8.51	34.04	2.13		6.38		2.13	100
	女	47.10	8.69	5.08	19.57	2.17	5.08	5.07	3.62	3.62	100
スマイル	男	25	5	20	40		5	10		15	100
	女	47.07	8.82	2.94	14.71	5.88	5.88	8.82		5.88	100

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ		51.25	5.00	10.00	30.00	1.25	1.25	1.25			100
バラ		39.05	12.38	2.86	18.10	2.86	5.71	8.57	4.76	5.71	100
計		44.33	9.19	5.95	23.24	2.16	3.78	5.41	2.70	3.24	100
スマイル		31.48	7.47	9.25	24.07	3.70	5.55	9.25		9.25	100

第 十 二 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ	男	55.56	9.52		28.57	1.59				4.76	100
	女	42.55		4.26	29.79	19.14				4.26	100
バラ	男	51.61	16.13		6.45	16.13			3.23	6.45	100
	女	64	10	2	14	4				6	100
合計	男	54.26	11.70		21.28	6.38			1.06	5.32	100
	女	53.61	5.16	3.09	21.65	11.34				5.15	100
スマイル	男	43.86	21.05		12.28	5.26		1.76	3.51	12.28	100
	女	40.23	14.94	2.30	19.54	8.05				14.94	100

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ		50.00	5.45	1.82	29.09	9.09				4.55	100
バラ		59.26	12.35	1.23	11.11	8.64			1.23	6.18	100
計		53.93	8.38	1.57	21.47	8.9			0.52	5.23	100
スマイル		41.67	17.36	1.39	16.67	6.94		0.69	1.39	13.89	100

第十三表 (五年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
大きい組	男	65.48	2.38		17.86	3.57			1.19	9.52	100
	女	32.63			41.05	17.90				8.42	100
	計	48.04	1.12		30.17	11.17			0.56	8.94	100
小さい組	男	30.30	3.03		12.12	15.15				39.40	100
	女	42.42			27.27	16.67		1.52		12.12	100
	計	38.39	1.01		22.22	16.16		1.01		21.21	100

を通じて動かないがB E其他は年度によつて其位置が變るこゝが解る。それで幼児の仕事の仕ぶりはAとDが最も普通の型である云ふこゝが出来ると思ふ。此のこゝは組別にしても男女別にしても殆んど同じこゝであつて、唯八年度のバラの男がAに次いでBとEが多く、Dは第四位になつて居り、又同年度のスマイルの組の男でBがAに次ぎDは第三位になつて居り、更らに六年度のスマイルに於てDが最高で其次ぎにCが多くAはGを除いてB Fと共に第三位になつてゐるのみである。尙これらの點を明かにする爲めに次に前掲の表を百分比に直した表を掲げて見る。

此等の表に於て觀察し得る點は男女及び年齢による相異、と教育による相異である。先づ六年度の表を見るにチュールリップミバラに於てはAは男よりも女に多くDは女よりも男に多い。二組を合計して見るならAは男に於て三六・一七で女に於て四七・一〇となつてゐるがDは男に於て三四・〇四、女に於て一九・五七となつてゐる。故にこれだけを見れば直ちにAは女にDは男に多い型と斷言したいやうに思はれるのであるが、八年度と五年度の表を見るならそれには全く反對の結果が表はれてゐるのを見出す。だから六年度だけの表から斷案を下す事は早計と云はなばならぬ。寧ろ仕事のしぶりに於ては男女の相異點を今の所見る事は出来ないものとしなければならぬ。

次に年齢に於ての相異であるがAは六年度に於ても八年度に於ても又五年度に於ても年齢の小さい組が年齢の大きい組よりも少ない。して見るにAは年齢と共に多くなる

ものミ云へるのであるが、併し然う断定する事はまだ出来ないやうに思はれる。若しAが年齢ミ共に増加するミすればAは發達した型ミ云へるのである。若しAが發達した型であるミすれば、Aは教育によりて増加するものミも見なければならぬ。此れについて前に掲げた六年度の表によりて見るにバラの組よりもチューリップの組の方がAの数は遙かに多いだからそれだけで云へばAは教育の結果多くなつたものミ思はれるのであるが他の年度の表ミ比較して見るなら必ずしも然うでないミ云ふことが明かにされるのである。だからAは教育の結果現はれる型であるミか、發達した型であるミかは未だ云ふことは出来ない。發達した型、ミ云へば發達しない前の原始型式は何であるかを指摘しなければならぬし、そして其原始型式が何であるかはまだ云ふことは出来ない。故に今の場合まだAを發達した型式ミは見ることは出来ない。故にこれらは皆幼兒の個性的性格或は心理的狀態によりて作り出された仕事ぶりの原始的型式であるミ見ておくの他はない。

成人の仕事ぶりを見ても矢張りAからGに至る七種の型のあるミを認める事が出来る、それ故幼兒期の遊戯的時代に於て既に成人の仕事ぶりの型式が原始的な型ミして現はれるミを以上の研究に於て明かに認めるミが出来るのである。

尙仕事ぶりミ智能ミの關係であるが、これについては先づ八年度の智能検査をしたもの、仕事ぶりを智能指數に分配整理して見れば其大體を知ることが出来るミ思ふ。

此れによりて見るにAは明かに智能の高くなるに従つて減じ智能の低くなるに従つて多くなつてゐる。して見るミAミ云ふ極めて普通の仕事ぶりは智能の低い者に多く現はれる型ミ見るミが出来る。Bは智能指數が百二十以上のものに一三・九五で可成り多い方であるが智能が百十、百二十の所ではそれよりか遙かに減じ、智能百以下では又非常に多くなつ

第十四表

智能指數		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
130以上	男	3			2					1	6
	女	14	6	2	6	3				6	37
	計	17	6	2	8	3				7	43
	%	39.54	13.95	4.65	18.60	6.98				16.28	100
120	男	12	1		13	2				2	30
	女	15	5		7	3			1	5	36
	計	27	6		20	5			1	7	66
	%	40.91	9.09		30.30	7.58			1.52	10.61	100
110	男	4	1			2		1	1		9
	女	22	1		16	8				1	48
	計	26	2		16	10		1	1	1	57
	%	45.62	3.51		28.07	17.55		1.75	1.75	1.75	100
100	男	28	14		4	4				3	53
	女	10			4					3	17
	計	38	14		8	4				6	70
	%	54.29	20.00		11.43	5.71				8.57	100
90	男	9	5		6					3	23
	女	17	2		1	1				1	22
	計	26	7		7	1				4	45
	%	57.78	15.56		15.16	2.22				8.88	100
80以下	男	6	1								7
	女	4				1				1	6
	計	10	1			1				1	13
	%	76.93	9.69			7.69				7.69	100

て智能八十以下で又甚だ少くなつてゐる。故にBは普通の智能の中に於て下級なものに優秀なものに最も多く、普通の智能の上級なものに八十以下の智能のものに少ない。Cは殆んど数が少なく右の表では百三十以上のもの、中に二人(四・六五)しかない。Dは百十の智能のもの、中に最も多く其上には少なく其下にはそれよりもつゝ少なくなつてゐる、八十以下には百二十以上とほぼ同様にある。それでDはEと丁度反対になつて、Bは百以下のものに、Dは百十以上のものに多くなつてゐる。Fは一人もなくGについては別に云ふに及ばない。

要するに此の表だけではまだ確定的なことは云へないがA B D Eの四種の

仕事ぶりは智能との關係が相當深いものではないかと思はれるのである。

尙これについては小學校の成績と比較して見て幼兒期の仕事ぶりが小學校に於ける成績との關係をも研究する積りで一應學校の方も調べては見たが平均點九點十點のものが多く八點七點のものは極めて少ないため研究の興味が失はれたのである。これは後の研究に残して置くことにした。それに小學校の成績にしても一年二年の成績には家庭で手傳はれた成績も相當あるのではないかと思つたからでもある。子供自身の眞の成績が何年位に表はれるかは私にはまだ解らないが、若し四年五年の頃から表はれるものこそば今こゝで研究の對象となつてゐるものは最高が四年で、四年はまだ中途であるから眞の成績を見るべきものはまだ全然得られない。何づれにしても小學校の成績と幼兒期の仕事ぶりの關係は後の研究に残して置くことにする。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス。其要項左ノ如シ。

東京女子高等師範學校

一、募集人員

凡ソ二十四名

二、學費

學費ハ總ベテ自費トシ授業料年額金五拾五圓ヲ徵收ス。

三、選抜試験及身體検査

選抜試験ハ二次ニ分チ之ヲ施行ス、第一次ハ全志願者ニ對シ之ヲ行ヒ、第二次ハ第一次ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ。

第一次試験

國語(解釋・作文) 理科(植物) 圖畫(自在畫)

第二次試験

音樂(唱歌) 身體検査並ニ口頭試問

四、出願

二月八日より三月九日マテ

五、試験及検査期間

三月十六日同十七日ノ二日間

六、出願受付試験及検査場所

東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校

右ノ外、生徒募集ニ關スル詳細ハ之ヲ記載セル印刷物ニツキ承知スベシ、此印刷物ハ直接本校ニ就キ受領スルカ、

又ハ貳錢切手ヲ貼附セル封筒ヲ添へ、本校ニ對シ郵便ヲ以テ之ヲ請求スベシ。

幼稚園園歌ものがたり(下)

葛原しげる

4、神戸市楠幼稚園々歌

私が、この作歌にかゝる前に、園長先生から示された案としては、すでに、歌の形式をそなへたものがあつた。曰く

一、春は櫻の咲きにほひ

秋は紅葉ば 散りしく

みんなのすきな 幼稚園

たのしい 楠幼稚園

二、積木遊びに砂遊び

戦争ごっこに おまへんがら

(みんな仲よしの)

.....

三、楠公様へおまいりし

大倉山で 遊びませう

.....
.....
(みんな元氣な)

さすがに、語調は、ミョのつてゐる。そして、園の徽章が、印象鮮明なる

菊水三二葉

であることも、作りよいものであつたのであるが、原案第一節に合せて、第二節、第三節をも、するにしても、園のモットーである

「みんな仲よく」

「みんな元氣よく」

の入れどころにも困るので、各節に入れようとし、原案第二節の、遊戯の類も分けて、

さくら もみぢ に よいお庭

唱歌も 遊戯も 面白い

皆の楠幼稚園

皆仲よし 元氣よし

雨の降る日も 風の日も

楽しいお話 お辨當

皆の楠幼稚園

皆仲よし 元氣よし

まして見たが、これではあまりに月並で、氣がさすので、

一、春は さくらの咲くお庭

秋は 紅葉の散る お庭

みんなの楠幼稚園

みんな 仲よく 元氣よく

に對して、形式を調べて

二、夏は 積木に 砂遊び

冬も 戦争ごっこ おまへごっこ

みんなの楠幼稚園

みんな 仲よく 元氣よく

もし、更に、第三節には、此の幼稚園の徽章が日本一である事、第四節で、楠公さんや、大倉山を出して、特色づけ、しかも、形式としては、「起、承、轉、結」の法に従つて見たところ、幼児の歌謡としての長さに制限を考へてゐる私が、デレンマに陥る事になる上、第二節にも、季節を出して、春夏秋冬を並べることは、善くもあり、悪くもあるので、考へ直してゐるさ、園長の方から、

「實は、幼稚園には、遊戯の他に、おはなしを尊重してゐる。ブランコも、皆大好きで……」

「このおはなしが出たので、早速、

『積木、おはなし、砂遊び、

唱歌、戦争ごっこ、おまじない、

何でも 楽しい幼稚園

みんな 仲よく 元氣よく』

こもして見た。ところが、これは、如何にも、名詞の羅列に過ぎなくて、まづいごも夥しいし、四節からの長さになるのに、それこそ、轉換もなく、各節とも、同じ、「みんな仲よく、元氣よく」の反復が、飽き易い幼児にまつては、慘酷なもので、大英斷をして、この第二節は、カットしてしまつて、

楠幼稚園にのみ限つた内容こそ、

楠幼稚園々歌には、なるのだ。

こばかり、みえをきつたわけで、次の様にしてしまつた。するに、此の第二節になつた

『帽子の二葉菊水は

日本一の きしやうです』

が、ひびく、目立つて來て、園長先生も、大よろこび。しかし、二葉なら故障はないけれど、菊水が、「毎日のびてはふきりては」は、をかしいと友人が笑ふのであつたが、しかし、各節とも、第二行目で、切れてゐるのである事を答へて、安心させた事である。それにしても、幼児に

毎日のびては ふきりては

忠義と 孝行 いたしませう

こ、忠孝を説く事に、又、批評がありさうであるが、既述した所もあるまほり、讀書百遍すれば、その意が自ら通するまじく、「三つ兒の魂百までも」である。雪白の幼兒の心に、理窟なしに、泌み込ましておきたい色彩の多い中に、日本人は、何ごしても、千萬年後までも、忠孝一途、世界に比なき君臣父子の情の濃かな點こそは、強く、深く、信念さなるまでに、幼少の時から、只々、言葉の上だけでなくでもよいから、

「忠義ご 孝行 いたしませう」

を、口ずさましても、泌み込ましておきたいものではないか。佛教の一派には、ある句は、口にするだけでも、救はれるささへ説いてゐるではないか。

さて、三節の中、第二節にだけ、

『みんなの楠幼稚園

みんな 仲よく 元氣よく』

がないのであるが、第一節ご、第三節ごにはあつて、形式からいつても、却つて、美しくもあるごご、宇治の鳳凰堂の建築式である。凸字形にしても、凹字形にしても、中央にだけ特異性を具へさせておくごごは、よいのである。

第三節の冒頭「いつもは、困る。幼稚園から、いつも出かけてばかりゐては、困る、ごあらば、「今日も」にしようか。それも、度々で困るなら、「今日は」にしようか。「今日は、お天氣もよいし、する分、久しく、参らなかつたから、登らなかつたから、さア、——」ご促がす事にしては如何。

ごころが、さる人の説がある。

「都會地の幼兒は、なるべく、度々、毎日でも、日光にあて、風にあて、そして、實社會の種々相にも、心しては、

觸れさせたい。しかも、これは、日本の誇りもしてゐる楠公さんである、程遠くない大倉山である。毎日でも、参らせたく登らせたいのである。しかし、事實は、それが出来ないのである。そして、棒ほぎ願つて、針ほぎ叶ふのが人の實相であつて見れば、『いつも』願つて、悪い筈はないではないか。」

三、恐しく、六かしい事になつたけれども、肯んすべき論旨でもあり、園長先生にも、異論はなくて、いよくきまつたものが、これである。

一、春は 櫻の咲くお庭

秋は もみぢの散るお庭

みんなの 楠幼稚園

みんな

仲よく 元氣よく。

二、帽の 二葉菊水は

日本一の きしやうです。

毎日のびては ふこりては、

忠義

孝行 いたしませう。

三、いつも まわりませう 登りませう

楠公なんかうさまへ

大倉山おほくらやまへ。

みんなの楠幼稚園くすのきだうちえん

みんな

仲よくななか 元氣よくげんき。

この楠幼稚園の出身者には、同園會さいふのがあつて、時々會合の度毎、皆で、歌ふ爲に、「楠幼稚園同園會の歌」さいふのも出來た。大變よい事である。

ら、東京愛隣幼稚園々歌

この幼稚園のマークは、二葉である。「二葉より香ばしく」、の意味である事は謂ふまでもない。そこで、その二葉さいふものを、何ミかして、幼児向の歌にしようさいふのである。相對的のものにしないではないのである。そこで、その二葉も日のたつにつれて、大きくなるべく、花咲くべく、希望に燃えてゐるのが特徴である。

それを、二つにして、第一節では、

「のちには 大きい〜木

お山や お庭の 大きい木」

ミしかけたのを、只々「大きい木」の反復にはしないで、「りつばな木」ミした。また、花の方も、只、花を咲いたゞけでもよいが、慾はつて、實のらせた。即ち、

「のちには、野山を かざる花

お花の後では りつばな實」

こいふのである。此の「りつばな實」こいふのは、幼児向に、「おいしい實」をもしたいところ——誰かは、そんな食ひしん棒は止せ、こいふ。しかし、幼児にこりては、

1、たべる

2、あそぶ

3、ねむる

の三者は、特權なのである。大人のにいへば、子供の仕事、此の三つなのである。その第一位にあるのが、實に、「たべる」こいふのである。強調していへば、決して、「食ひしん棒」なき、さげすむべき事柄ではないのである。食ふこいも、神聖なる幼児の仕事なのである。それを思へば、

「お花の後では おいしい實」

まして、決して非難はないのであるが、第一節の、

「お山やお庭の りつばな木」

に對照した次第である。そこで、

一、かはい、ふた葉、小さな葉

のちには 大きい 大きい木

お山や お庭の りつばな木

二、かはい、ふた葉 小さな葉

のちには 野山を かざる花

お花のあこでは りつばな實

こまごめたが、これでは、あまりに、理科の説明文めき、博物のおさらへになつてしまひさうなので、幼稚園の爲でなくとも、こ更に、おめでたくも、たのしく、

第一節に、

「あかるいお日様 ニーニ」

第二節に、

「氣もちのよい風 ソーソ」

を添へてみた。

この、「あかるいお日様」は、「氣もちのよい風」は、如何にも、おあつらへ向であるが、如何に幼稚園向だからさひ、歌だからさいつても、不合理があつてはならない。但し、幼児のイリュージョンを、ここまで尊重するかは、殊に、自然界の諸現象に對する幼児のおごろきや、うたがひを、何う誘導し、何う解決するかは、その取扱者の深く考慮しなくてはならない點であるが、童話童話の世界の仕事に没頭してゐる私共不斷の念願は、

幼児と共に おごろき

幼児と共に うたがふ

こころの單純・平明、そのものでありたいことである。而して、宇宙間永劫の眞理は解決し得なくても、その眞理のあ

らはいれを、神秘^{△△}を感じ得る敏感性は有りたいこゝなのである。宇宙間の神秘を感じ得る敏感、それは、幼児の心である。その幼児の心に、かゝる歌謠を以てしても、眞理または神秘を、感ぜしめる萌芽を植ゑつける爲にも、時[△]、所[△]を超越して、永劫不變のものたる「日」[△]「風」[△]を配して、その力を、それ[△]なく、感ぜしめる事に、何の非難があらうや。「風」[△]はその意、「空氣に他ならぬ」。かくて、その「日」[△]「風」[△]を加へたのは、

一、かはいゝ ふた葉 小さな葉

のちには 大きい大きい木

お山や お庭の りつばな木

あかるい お日様 ニーコニコ

二、かはいゝ ふた葉 小さな葉

のちには 野山を かざる花

お花のあみでは りつばな實

氣もちのよい風 ソーヨソヨ

である。即ち、太陽が、すべての原動力ではあるが、もつゝ表面的にいつても、太陽の光[△]熱[△]の賜[△]として、成育があり、又、空氣の賜[△]として、同じ、成育がある。それをさう[△]は謂[△]はないで、「ニーコニコ」や、「ソーヨソヨ」の幼児語によつて、童謡化して、氣樂に歌[△]ひを[△]は[△]ら[△]せ[△]よう[△]としたものであることは、いふまでもない。

只、「大きい大きい木」の「大きい」であるが、これは、

「大きな 大きな木」

こした方が、ふさはしくはなかつたかき、今の私の不安である。「大きい」の「い」はその音韻が、せまい、くらい、つめたい。けれども「大きな」の「な」は、ひろい、あかるい。あたゝかい。「大きき」をいふには、「大きい」よりは、「大きな」こそ、こ思はれる。それが、終止法でない限り、「大きな木」の方が「大きい木」よりは、ふさはしからうかき思はれる。

序ながら、これと同じく「小さい」も「小さな」についての私の近頃の不安もある。東京では、「い」よりは、「な」の方が、よく使はれる様である。私が、さる小學校の四年生について尋ねたら、

「ちひさい」は 女のこばで、

ちひさな は、男のこばだ」

こいつた兒童があつた。これは、前述の

ア列の音き、

イ列の音きの差

であるから、「小さい」の方が「小さな」よりは、狭くて、「小」をあらはすには、ふさはしいき考へられるのである。しかしその音韻上の表現は離れて、

「大きい」も「大きな」、

「小さい」も「小さな」、

は、「い」も「な」もこの音の響のさちらが、幼兒に、自然であるかの問題になる。由來、文壇の先輩、多くの文獻について見ても、かういふ場合には「い」の方が多い。一例として、女學用のある國文教科書の中に、島崎藤村氏の『小さい旅人』を題する一文が有つたのであるが、女生徒の幾人もが、朗讀に際しては、自然に、「小さな旅人」を讀んで困つた時から、注意

してゐる私の一の不安なのである。題目では

『小さい旅人』

ミ、明確に読んでから本文に入つても、本文中の、「小さい旅人」をば、多くが

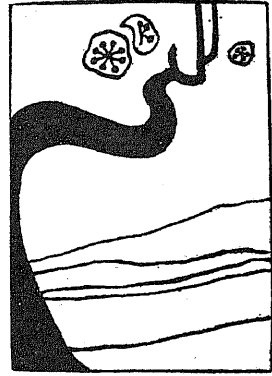
「小さな旅人」

ミ読んで困つたのである。これは、小學校の國語讀本中でも度々有る事實であつて自然の音便ではあつても、これは、音楽上からは、大きい問題を提供してゐる。

〔結〕

一體、幼稚園向の、四大節の歌の如きも當局から、發表されてもよい頃である。この時、私共は、全國幾百萬の幼児、少くも幼稚園兒幾十萬の爲に、もつぎ／＼ふさはしく、正しく、楽しい歌謠を、むき／＼に、提供しなくてはならぬと感じてゐるのであるが、さしあたつて、自分の歌ミして、愛唱飽く事を知らないやうな自分の「幼稚園々歌」が日本中の幼稚園に、早く、制定せられんことを祈つてやまないことを、繰返しておく。

げに、ミこの幼稚園でも、窓の一つから、流れ込んで來る歌謠の多くは、何ぞ。流行歌の一節か、ジャズめいた小唄のいくさりか。否々、ミこかの幼稚園のレコードの中には、幼兒に、ふさはしからぬのみか、幼兒の耳を、心を損ねるかも知れないほぎの俗惡な童謠レコードが、まじつてはるないかさへいつて見たい程の現状ではある。



來月のお節句に準備して

生きて來た雛祭

山田 徳兵衛

近年「雛祭」の素晴らしい隆盛……こいふこには色々な理由があるのでせうが、これを一口に申すなら「雛祭が生きて來た」こいふ事に起因するのだと考へます。

生きて來た……こいふ事は「子供の物になつた」こいふ事でもあるのです。

雛祭の起原……紫式部の頃の文獻を最も古きものとして其れを温ねるミ御みご 祓はらの行事ミ、婦女子の遊びミ二つが源流になつてゐてこれが何時か合流して今日の雛祭への流れになつたものですが、前者は勿論大人のものでありますし、後者の遊びミて幼き者のもので無く寧ろ妙齡又はそ

れ以上の有閑女子たちの徒然の遊びであり、結婚への憧れの現れであつた様に考察されます。

徳川期に入つて彌々旺んになり女兒出生の年中行事として全国的になつた雛祭も、形式こそ今日のミ大差なき様になりましたが内容や扱ひ方に於てかなり大人のおとなのものであり、第一其意義が「親が子の爲めに飾る」こいふ事が勝ち過ぎて兎もすれば「こさも近よるべからず」の方へ傾いてゐた様に考へられます。

(此傾向は立派な雛飾りをする都人に最も強く、さ々やかな紙雛にお手製の草の餅を供へる片田舎の方が遙かに子供ミ雛祭ミの親しみが多かつたミ見られます)。

明治時代になつても其儘の延長であつたので雛祭も他の行事に壓おさされてやゝ飽かれ氣味の感でした。

こんな佳い行事を枯らすのは惜しい……こいふ運動が明治から大正の始めにかけて起つては居ましたが其れは所謂趣味家の連中の運動で、こもするミ雛祭が其の人達によつて眞ま眞まの引倒ひきたしに遭ひ骨董化して好事家のものになつて仕舞ひそんな氣運でした。

世の識者……こさも黨がこれではいけぬミ雛祭のこさも化、フレッシュ化を叫ぶ聲が漸く高くなつて來た頃、折もよしアメリカから黒船ならぬ碧い眼のお人形の大群が「ニッポンのヒナマツリへ」このメッセージを持つて押寄せて來たのでした。

これによつて圖らずも教育家、趣味家及び人形製作者の握手ミ理解が色々な形に於て實現したのでした。

續いて、畏多いお話ですが宮中に於ける照宮様はじめ御三方内親王の御生誕は、わが雛祭の上に如何に光輝ミ新しき生命をお與へ下さつたか！

今や雛祭はまつたく全國の子供の最も親しみ深き行事ミ

なつて學校に幼稚園に家庭に行はざるは無き程になつた。

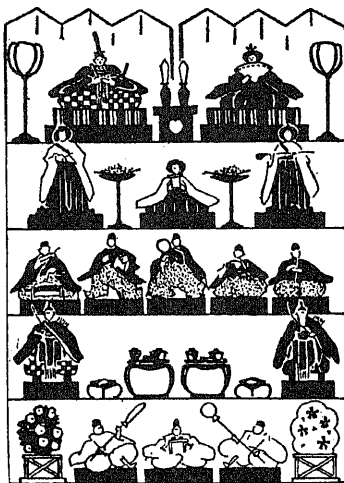
そして一方教育家、趣味家、人形製作者の完全なる理解ミ協力ミによつて雛祭ははつらつミ生きて來た。

子供等ミ共に息をして居るように……。

*

*

今年も二月の聲ミ共に新聞に百貨店にお人形の國のデモンストレーションが賑かに行はれる事でありませう。



最近の傾向ミして雛壇の中心はあくまで本格的に飾る事が行はれて來ました。

それは、以前は飾る種類や位置も其土地々々によつて一

定してゐなかつたのが追々統一されて來て今日では殆んど全國的に方式が極つた爲めせう。

さて其本格的の飾り方は………と申しますと

七段又は五段の壇を設へて、別圖の様な順位に十五人の雛人形を飾るのであります。

お道具も大略、圖の如く飾るのが普通でありますが此れは壇の廣さ等によつて然るべく並べて差支はありません。

十五人のお人形の中に五人雛子だけが必ず童顔で、和やかな氣分を加へてゐるのは大變面白い點だと思ひます。そして此五人雛子が子供たちに一番呼びかけてゐます。

以前は樂人がくじんと稱して大人顔の雅樂の人形をよく飾りましたが、最近はこの童顔の愛らしさに壓せられて殆んど行はれなくなりました。

*

*

雛壇の中心が益々統一され本格的の飾り方流行の反對に、それに飾り添へらるべき人形は段々種類が殖へ、そしてその取材が非常に廣く自由になつて來ました。

ももは高砂さか小町姫さか僅かな種類のみより無かつた

のが近頃は、舞樂、お能、狂言、舞踊などからお伽噺さては童踊までそれに取入れられて作られ、各々の趣味によつて自由に選ばれ飾られる様になりました。

此點は外人の稱する如く將に人形祭ドールズフェスティバルの感があります。即ち、中心は彌々本格的に、下壇に飾り添へるものは益益自由に………此れが最近の雛祭の傾向です。

*

*

私の考へ、そして切望する處は、家庭の方々や、幼稚園、學校の先生方によつてもつゞく子供に親しみを持つ方法を雛祭の上に色々に考案していたゞきたいと存じます。

買つて來た人形ばかりでなくみんなで苦心合作した奇妙な雛人形も一つ位あつてよろしいでせう。碧い眼のお人形も勿論飾り添へて下さい。旅行土産の郷土人形も忘れずお仲間入りをさせてあげて下さい。

そのほか色々なよい趣向を此の雛祭の上に應用されていいたゞきたい。

そして芭蕉翁の所謂、人形天皇を中心に多くの人形の和合し樂しむ様を現出し、その前で師と共に、親と共に遊ぶ

事としたり、子供等のよき印象は必ず一生去らぬものであらうと考へるに共に、この源古き雛祭を更らに／＼生かす事にならうと存じます。

* * *

最後に、私の雛祭に對する持論を二つ追加して筆を擱く事にいたしました。

その一つは雛人形を買ひ求め又は贈られる時は必ず「箱書」をなさい……といふ事です。

雛人形やお道具の箱はみな白木で作られ箱書を待つてゐる様なものです。

その年月日は勿論、贈り先、贈り主その他を蓋の裏にもこま／＼記して置いたなら、將來さんなによい記念になるこさか！

雛人形などは如何に古くなつたて捨て、仕舞ふなごといふ事は殆ど無い物ですから初の節句の赤ちゃん、よい娘さんになり、さんになつたら其の箱書を讀まれてみんなにか深い思ひ出になり贈り主を懐しむ事でありませう。

もし學校や幼稚園で有つたなら、それを飾つて唱はれた

オカッパのお嬢さまが今は、こそこの令夫人になつて居れる……なごさいふほゝゑましくも興深い記念物になる事とせう。

從來、稀にのみより行はれてゐない此の「箱書」いふ事を私は特に提唱する次第であります。

次にもう一つは雛人形を仕舞はれる日の問題ですが、これも私の熱望する持論として「地久節を此の雛壇の前でお祝してからお仕舞下さい」と申す事です。

地久節が女子の節句から程近き三月六日にあられるこいふ事は實に結構な事で（丁度天長節が男子の節句に間近き四月二十九日であられる事と共に）ぜひ雛祭を生かして此の佳節をお祝ひする事にも致したいと存じます。

家庭なら一家中が雛壇の前で打揃つて國母陛下の御誕生日をお祝ひし、御健康を御祈りする事とし、睦じく些やかな御馳走なり茶菓なりを共にしたら實に良いと存じます。

まつたく此の事は、昭和の大御代に生れ合はせたお互ひ國民のみの特權を誇つてもよい事だと思ひ信じて其の御實行を廣くおすゝめ申す次第であります。

(終)

忽七版
東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・插繪多數入
▲保育法の實際・實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園 保育法と眞諦

○倉橋先生保育眞諦 日本フレールヘル倉橋先生の代表的名著茲に出來。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園兒等は先生を「おちさん」と稱して相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即コトを悉く本書に披瀝さる。

○現代の保育法原論 本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者著書少く系統も力作は本書のみ。

○保育界耆宿の力作 著者は幼兒教育竝に家庭教育の第一人者として曩に畏くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各官家よりの御招聘も我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事ミ文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

特色の書本

- 第一篇 幼稚園保育法の眞諦
- 二 教育に於る目的と對象
- 三 形態
- 四 生活へ教育を
- 五 幼兒生活の自己充實
- 六 幼兒生活の誘導
- 七 幼兒生活の教導
- 八 幼兒生活の陶冶
- 九 幼兒の個性
- 十 幼稚園に於る保姆の位置
- 第一編 保育案の實際
- 二 無案保育の意義
- 三 誘導の保育案
- 四 保育案の採りどころ
- 五 保育案と保育項目
- 六 保育案立案度及徹底度
- 七 保育案と自由遊び
- 八 保育案の創造性
- 九 保姆の生活性
- 十 保姆の保育過程實際
- 二 自由遊びから仕事へ
- 三 個分團組
- 四 個の時間割
- 五 生活態度による分團組
- 六 流れゆく一日
- 七 生活の偶發性
- 八 生活の偶發性
- 九 日々の實際生活の尊重
- 十 おかへり
- 第四編 保育誘導案の試み
- 一 旅へ
- 二 人形の家を中心として
- 三 大賣出し
- 四 わたし達の自動車
- 五 特急列車「うさぎ」號



東京市神田區保町一丁目
東京市神田區保町一丁目
東京市神田區保町一丁目

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よここ先生 共著
 附屬幼稚園主事 保母 菊判四八〇頁 洋綴天金上製 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色
 一、二十年苦心の結晶漸く完成す
 二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る
 三、日本幼稚園史として比類なし
 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

〔内容目次〕

第一編 沿革及施設史	第一章 幼稚園開設前期	第一節 明治文化の建設	第二節 幼稚園開設の機運	第三節 幼稚園開設	第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設	第二節 設立後の経過	第三節 開園及開業式—皇
第二章 幼稚園の理論及實際	第一節 創立當時の規則及學年休業日	第二節 建物庭園及職員	第三節 保育科目及保育用具	第四節 幼稚園參觀記及追憶	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸
第三章 女子師範學校附屬幼稚園	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第四章 女子師範附屬幼稚園	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第五章 博物館	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第六章 唱歌遊戯	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第七章 公文、功績者、保育文獻	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第八章 功績者	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第九章 中村正直氏	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十章 關信三氏	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十一章 松野くらら女史	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十二章 豐田英雄女史	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十三章 小西信八氏	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十四章 保育文獻	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正
第十五章 其後の普及發達	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 行幸	第四節 保母養成機關	第一節 保母練習生の設立	第二節 一日の實際(保育)	第三節 保育科目の改正

幼稚園の名著
 版八 森川正雄著 幼稚園の經營 價二〇五 送三六
 版六十 森川正雄著 幼稚園の理論及實際 價二〇六 送三六
 森川正雄著 保母教育 價二〇六 送三六
 森川正雄著 兒童教育法 價二〇六 送三六

東 東 京 阪 東 洋 圖 書 株式 會 社 發 兌

東京市神田區神保町一丁目・振替東京一〇三〇七番
 大阪市南區安堂寺町一丁目二番・地番八二番・振替大阪三五九六番

雛十句

水谷年恵子

花さかぬ片山陰もひな祭 一茶

草葺の賤が伏屋、そこにも女の兒がゐて、小さいあき箱か何かに赤い布切を掛け、雛壇を造つて鼻のかけたお人形、手垢によごれたはふ子様なぎ飾つてゐる。桃の蕾は未だ固いが、山陰の雛の宿にも上巳の春が訪れてお人形の顔に千年の壽が輝いてゐる。

雛祭る都外れや桃の月 蕪村

三月月のほのかに匂ふ桃の宵である。雛にかしづく都外れの小家のほこり、眉よりも細い月光が、ほころび初めた桃の唇をめぐつて、五人囃の樂の音よりも妙なる詩を奏でてゐる。

灯さもせば長し短し雛の影 松宇

金屏をめぐらして崇嚴な氣のたゞよふ處にましますは神神しい内裏様。或は坐して盃を持ち、或は立つて長柄・銚子を捧げるは美しい官女、五人囃は陽氣な衣裳で、唄を歌つて笛吹いて、太鼓たゝいて鼓を打つて、拍子をかしく囃してゐる。左大臣に右大臣、綺羅錦繡に威儀を正して控へ給ふ。数々のお調度・御馳走に五彩の色が流れ、きら／＼の雛の姿に珠玉の光が添つて、左近の櫻・右近の橘のかをる御殿の眞晝はまばゆいばかりである。

日が暮れた。

春宵一刻價千金、雛の御殿の艶なるゆふべである。雪洞の灯影に大宮人の花のかんばせ、ほの／＼匂つて、あてなる姿のほのかな影―影―長い影、短い影、美しい影―

祖母の雛母の雛までかざりけり 小さん

これはおばあさまのよ、これはお母さまのよ、みんなみんな飾つたのよ、これはあたくしの、ねえお雛さま、うれしいでしょ。

雛壇にゴボミ汐ふく榮螺かな 冬葉

青い海原大波小波

榮螺のおうちは海の底

何處へ来たのか知らない榮螺

誰もたづねてくれない榮螺

誰にいうたのかゴボミいうた

雛の御殿の夜あけがた

鼻紙や誰が泣屑の島ひいな 紅葉山人

鳥も通はぬ八丈島へ、島流しに遭つた英一蝶が、島で三

月上巳の節句を迎へた。花のお江戸の雛祭を八重の潮路の

彼方で追想して、紙で八丈島の風俗人形を作り之を飾つ

て、獨り寂しい祭をしたさいふこまである。

島ひいなの一匂、よく當時の一蝶が心境をうつして哀情

つくる所を知らず、鬼神も涙を落すの感がある。

手のひらに飾つて見るや市の雛 一茶

手のひらに飾られた雛の、夢見るやうな眼、笑みすぼめ
た口もさなぎ、見えるやうであるが、それよりも之を眺め
て悦に入る人の姿が彷彿として目に浮んで来る。何ぞ好ま
しい雛市情景であらう。

雛市は江戸の十軒店か、或は他か。十軒店は昔から有名
なもので、今に居附の雛師七軒が残つてゐる。

玉翁・玉山・玉船・光月・久月・弄春齋・永徳齋さいふ。

信州下高井郡中野町、之も古來雛市で有名な處である。

「中野名物數ある中で音にひびきし御雛市」

一茶が句の生まれたのはいづこの雛市か、なつかしいこ
こである。

旅人の桃折つて持つ節句哉 樗良

陰曆三月三日の節句の頃は恰も桃の花が眞盛である。桃

の節句の名ある所以である。桃は仙木で、支那の西王母の

園の桃は三千年に一度花咲き實がなるさいふ。その實を食

べた者は千年の齡を延べると言傳へてゐる。

めでたい桃の一枝を手折つて、今日の節句の旅路を行く
人の、無事を祈るに似た心が思はれておもしろい。

此の節句に桃の花を酒に浮べて飲む風習がある。百病が
癒えて、桃のやうな顔色になり、健康を増進するこいふの
であらうか。

桃の酒子供のやうにかしこまる 壺中

子供の心にかへり、子供の日にもぎつて楽しい盃にかし
こまる人の姿は想像して見るだけでもうれしい。(白酒は
桃花酒から變つたものゝ聞いている)。

桃は少女の姿を心こもる花のやうに思はれる。赤くふ
つくりこした所に花の生命があり、少女の生命があるので
あらう。

桃は又雛壇に最もふさはしい花である。

桃ありて益々白し雛の殿 太 祇

桃の蕾の愛らしさは、雛祭の御馳走のおいりゝ相俣つ
て、色も形も好ましいものである。(桃は葉も薬用として
貴ばれる。菱餅はこの桃の葉をかたぎつたものであるこい

ふ)。

桃の節句はそのまゝ美しい詩である。



幼稚園のお雛祭り

「あなたの幼稚園で三月三日の雛節句などの様になさいますか」と、主に關西の幼稚園の方々にお尋ねを致しましたところ左のやうに皆様思ひ／＼のおひなまつりのなさり方をお寄せ下さいました。(編輯部)

京都市 城巽幼稚園

節分がすみますと幼児の生活目標は、お雛祭りへと向ひます、各幼児のはたらき相當のひなを造り、紫の幕を張つた空箱の御殿に納め、當日は、園備付けの年をとつたお雛様と共に、祭壇に飾ります。お飾りをして居る間に、年長の女兒は五色の、あられを煎り供物準備を致します。

大方の年は、前日に子供等一同祭壇の前に集ひ種々の供物をなし、お話唱歌等して遊びます。翌日は午前中の豫定で、小学校の講堂を借り保護者一同を迎へて、ひな祭り兼ねたお遊戯會をして楽しみます。其

の日の午後はひなの前で、区内婦人會員が集ひ來て、若菜のひたし、おすしなどの御馳走を致します。お子様へは各自製のひなの他に、お菓子又はあられ等を持たせて家づとにいたします。

祭壇のあります間、各組代る／＼書埴當を、おひな様の前でお行儀よくいたゞく事に致します。

以上の次第で御座いますが、此處に一寸私にとりましては有難い保育資料が内在するので御座います。さきに年長女兒の煎る五色のあられと申しましたが、年によつて、三色であつたり五色であつたりは致しますがそれは、私の年とつた両親が何れも七十

歳前後になつて居りますが、毎年寒餅を搗いて、はる／＼遠い海山越えた田舎から、私共親子の處へ色をつけた、のし餅として送つて來るので御座います。荷物を解くと、あけてびつくり玉手箱の様な氣持ちで喜びと涙のうちにとり敢ず、私は夜な／＼あられ切りを致します、これを乾かして園の子供たちへも分たうと持參するので御座います。

女兒たちは小さい四角な餅が、ホーロクの上でガラ／＼ませて居る間に圓いきれいな、あられになるのを、こよなく喜びます。大抵大きな丸火鉢で三人代る代る箸でまぜて煎ります。一煎り毎に増えて行く小さいあられの山を眺めて子供は雀躍して喜びます。供物の他に極く少量では御座いますが、試食をさせます。黄色なのは黍、緑は青海苔入り、白色はお鹽、赤いのは紅等と一つ一つ味つていたゞきます。此のあられば私のお父様お母様などと話し出でますと、子供は、先生お母様やのに、と不思議相に申しますが、やがてはおちい様おばあ様を想起して各自の祖父母の有無を語りなどし

て、私の話すあられの生ひ立ちを、さも不思議相によく聞いてくれます。私の両親は、私がかうして小さい子供を喜ばせて居る様に私等親子を喜ばせ様とて小さい青田から苦勞して作つた米の收穫を餅にして、來る年も來る年も送つてよこすので御座います。親心を分つ喜び、來年も又來年も續けられます事を祈りつゝ、取り急ぎ記しました譯で御座います。

(昭和十年一月西京にて 塩崎多眞)

京都市 永觀堂幼稚園

一 準備

(イ)疊敷大廣間の正面に雛壇を設け、内裏雛をはじめ、宮中に奉仕せるお人形の幾多の種類、並にお膳お碗其他お道具玩具のお人形などとお節句より數日前に飾り、前以て其各々につき觀察せしむ

(ロ)幼児は當日お雛様へお供へし、お誕生の方々へ分配する目的の下にお人形、お道具、お菓子など(園庭にて拾ひ集めたる自然物、色紙其他の材料を用ひ)製作する。

二、雛節句當日は保護者並に卒業生の女

兒を特に招待し、幼兒も先生も共に一日た有意義に楽しく過す(卒業男兒は五月節句に案内す)

(イ)當日は日常のお式後園長先生のお雛祭についてのお話があり、續いて三月生れ幼兒のお誕生會並卒業生と幼兒の遊戲會を催す。

(ロ)昨年十月より園にて毎日晝食を供給して居りますから當日はお雛祭にふさはしきお獻立にして保護者も卒業生も一同が雛壇の前の大廣間にて楽しく頂く。

(ハ)食後幼兒は先生からの御心盡しの花あられ或はお菓子などをお土産に頂戴する。お誕生幼兒は更に各組からの製作品も分配して頂いて歸る。

京都市 日彰幼稚園

當園の御節句會は母の會を兼ね専門家の衛生營養其他傳染病等についての講演を催して一度母の會を開きます。

次はお母さんも昔の子供に歸り幼兒と共に面白き童話を聞き、其後で幼兒の遊戲會をなし、終りに母子共に映畫を観賞させ樂しき一日を送る事にして居ります。

京都市 淨泉寺保育園

一、三月三日が近づきますと前以てお雛様に困んだお唱歌を教へたり、色紙でお雛様を作らせて置きます。

一、いよ／＼當日になりますと園にあります大きなおひな様や、一部の子供が家から持つて來る大きなお雛様のまはりはこの紙のお雛様を飾ります。そうしてその前でお話をしたりお唱歌を唱つたり蓄音機をかけたたりしてお祝ひし、正午に、この前で園の方で用意して置いたお壽司やお汁などを與へて皆で楽しくお食事します。

一、歸りには、この紙のお雛様にお菓子を一包そへて與へます。
毎年大體右のやうにして居ります。

神戸市 兵庫幼稚園

三月三日のお雛節句につきましては、格別變りました催しでも御座いませんが本園從來行つて居ります實際を左に申し上げます。

お雛祭は本年保育終了いたします児童にとりましては名残の會で御座いますので各家庭からお母様、お姉様子供達にて大勢お

集りして一年中最も楽しい日なの
でございます。

前日に飾りましたお雛人形や幼児等が致
しました雛に因んだ手技などをならべまし
た前でお遊戯をしたりうたつたり畫をか
いたり様々の遊びを致し半日を大人も子供と
一緒になつて楽しく過すことゝなつて居
ます。

神戸市 神戸愛兒院

三月三日雛節句はお嬢さんを主としたも
のですし五月のあやめの節句は坊ちやんが
主になつて居りますが五月は新入園兒で何
も出来ませんから私の園では兩方を兼ね且
小學校へ上る兒たちの爲をも思ひ三月の節
句に因み、人形遊びと名づけ兩方を同時に
してやります。そしてそれは三日と限らず
三日中にします。

男の節句はほんの心ばかりのことにして
此の人形遊びの方に全力を注ぎお遊戯等を
いたします。

廣島市 女子師範附屬幼稚園

この土地には昔からの風習でおひな様に

は女の子はお母様から一人一人別にお重
づめを作つていたりきみんがそれをもつ
て自分の仲よしのお友達の家を歩いて共に
おひらきにしてあそぶといふ様になつて居
ります。

幼稚園ではやはりこのよきをいつまでも
のこし度といふ氣持から當日は成る可く
早くおうちへ歸らせてやり、それについて
いろ／＼な注意や遊び方など話してやつて
居ります。(町では勿論舊曆を使つて居り
ます)

その頃には幼稚園でもお人形を飾りおは
なしも手技も遊戯もすべてをお雛祭りにも
けてやり、まゝごとなどにもおまき壽し等
のやうなものを工夫してやるといふ風な取
り扱ひにして居ります。幼稚園だけ新曆に
してもちつともその氣がのらないのでやは
り町に飾り出す頃を共にして居ります。

堺市立 堺第一幼稚園

三月三日の雛節句は幼稚園の一年中の行
事の内、最も楽しい嬉しい會合として、幼
兒は勿論保護者達も期待してその日を待つ
てぬます。「上の段には内裏様……この雛祭

りの歌も早くから歌はれ始めます、お雛様
は何日飾るか毎日やかましく尋ねます。

壇を遊戯室に組立てますと幼兒達は赤い
毛氈を引張り出して保姆の御手傳ひをして
くれます。内裏様やら五人囃子、三人上
戸、左右大臣やいろ／＼の道具を飾ります
と、めい／＼に自分の家のおひな様と比較
して、幼稚園のは大きいとか、うちのいち
まはんはもつと赤いおべんやとか段の前に
御行儀よく座つて嬉しさうにさゝやいてお
ます。

節句遊びの前日には當園を修了した一年
生を招いて、お世話になつた先生にお目に
掛り幼兒の遊戯の二三を見て在園時代を偲
び草餅に舌鼓を打つて半日を遊ばせませす。

當日は朝から保護者やら、來賓やら大賑
ひで雛壇の前で君が代を合唱し幼兒が雛菓
子、草もち、菱もち等のお供へを順次に致
します、重たいひしもちは男の子が可愛い
お手々に危なげに捧げてゆくのも愛嬌なも
のです。

お供へが終つて園長から節句のお話、一
同揃つてきれいな聲で「今日は嬉しい三月

三日桃や櫻のお花を活けて……と元氣に歌ひます、それからいよいよ幼児達のお遊戯やらお話やらプログラムによつてひききりなほに舞臺の上で演じられます。

正午近くになりますればかれて有志の方達の手によつて小さな赤い膳の上に雛すし、雛菓子、草もち、みかん等きれいに並べられて幼児の手に運ばれてゆくのを待つてゐます。

雛壇の前で全幼児が嬉しげに舌鼓打ちつゝお食事をされる様は來賓の方達も、保護者の人々も一入の感を抱いて眺められます。かくて楽しい雛節句の一日は終ります。

大阪市 集英幼稚園

雛人形を飾りつけてその前で遊戯會を主にして唱歌やお話など致します。司會のすべては子供に一任して先生は輔佐役。お客は子供さんとお母さん、兄弟さん、おばあさんたち、おみやげは雛に因んだお菓子折、そして雛人形の飾りつけ片附けのすべては年長の女兒にさせます。

岸和田市

鳩巢園

當園では三月三日のお雛祭は園児やお母さん方にとつて年中行事の最も楽しい一つとして待ちかゝれる日であります。従て其主催名義も當園の親睦機關である岸和田愛兒會で修了兒の送別會をかねて行ひます。

先づ雛壇を飾り付け其前で幼児の樂隊を以て始まり園児達のお遊戯やお母さん方のおどりや手品、お歌などの隠し藝でにぎやかに時を過し一同お手製のお料理を頂きま

大阪市 ランパス幼稚園

毎年地久節の日に地久節のお祝と一緒に雛祭りを致します。毎年いろんなお客様を呼びますが子供達(男も女も)の毎日遊んでゐるお人形さん(犬でも何でも)や先生達のお人形さん(この日は皆遊びにまわります。昨年はお祖母様方をお呼びしまして楽しく皆のつくりました御馳走に舌鼓をうっていたりしました。

御馳走は大抵巻壽しその他子供達と相談して作ったお獻立で、つくり度い子供は女でも男でも働いてもらつて作ります。

プログラムも一定して居りませんが前か準備した手技のお飾りで、これも即席の劇等をよく喜んで致します。

昨年はお祖母様方に見せる爲め桃太郎とお雛様のお家の劇を幕をしまたりあけたりして自分達の思ひのまゝ遊んでとても面白うございました。朝登園しまして十時頃迄にお掃除やお飾りやお料理の手助けをさせ、それから式、お遊び、會食といふ様な順序でございます。

沖繩縣 那覇幼稚園

三月三日當日はお裁縫室にお雛様を飾りまして(一週間前から飾つて置く)裁縫室の机にお雛様の前にコの字形に置き、其處に子供達を座らせ、お菓子等戴きながらお雛様の遊戯やその他好きな唱歌遊戯等致しまして楽しく遊びます。

又母の會費として毎月拾錢づつ集めて居りますのでそのお金の經濟の許します時は

保母が前日巻壽しはこすし等こしらへて、きれいなお皿に四つか五つづつ盛つて園長先生もおまれきしておいしく戴きます、それは小學校の給食炊事場を借りて致して居ります。

福山市立 福山幼稚園

當園は一年に二度致します實は此邊いまだにお在所との近接關係上幾分の舊曆に囚はれます上から妙な事には二度のお雛さま祭りを致しますといふ風で御座います。

それが平日自然物の中に生活致して居ります私共は形式的と申しますか本質的と申しますか二様に別れますの已むを得ません、此二月中には保育の順序として何も彼も發表自在の現はれを纏めてお雛まつりに結びつけて居りますのです。

自然の山自然の川其他野外などすべてがまだまるのほだかで家庭内は何れもまだ舊お正月の砌りその流れはお母さん達のお實家行きなどが、氣持の上では満喫するわけに至りませんのでいつも乍ら取り扱ひについて考へさせられます。

それでなんだか變に思ひつゝも雪を見る雛祭り桃も柳も萌芽のまゝ温室咲のお花を添へて遊戯室に雛壇を設け幼児の心を籠めて作つたお供へもお道具おもちゃ等もお飾して御座を敷きその當日は朝から私のお雛さまとして幼児の氣分を満足致させます。

午後は男女兒二二百名その室に入り着席豫て前日二年保育の女兒と一緒に作り出した用意のお煎りをお皿に盛り別け同女兒のお給仕により會食致します。

餘興としては幼兒の唱歌遊戯お話などの催を致して居ります勿論各組の室内にもお雛さまがいろ／＼と手技其他で出来上つてゐるのです。

一方の本質的のなりますと四月新入園兒を迎へてからで御座いますから終了幼兒の作品全部を保管して以前の様式に做つて雛壇を飾り自然の風物何れも合致の上ですから誠に氣分に申分のないふくらみがあつて如何にも無理がなく何れの家庭とも足並が揃つて、其頃は野外に子供連れで蓬摘みにも誘ひ若草採りも面白くよほど意義ある様

に感じますので此方も上巳の節句雛祭りとして行つて居ります。

その當日の行事は前に述べました通りに御座います。

またお節句を中心として此頃お辨當持參で野外に度々遊びます。

尙三月三日を意義あらしめるために唱歌會を開き家庭に呼びかけた事も御座います

が何しろ氣分は別らしう御座います。以上此地方には桃の節句菖蒲の節句菊の節句と申まして觀月と同様な活き方を致します。

松江市殿町 折づる幼稚園

當地方は一ヶ月遅れにする風習でございますが、四月三日は餘り入園當初なる爲、四月上旬(六日、十日位)に致します。當日は遊戯室の正面に雛壇を設け、内裏様をはじめ、數々のお雛様をお飾り致します。

全幼兒お遊戯室に集り、保母より色々お雛様についてお話をきき、一同で雛祭の唱歌上の段には内裏様……を歌ひ三組の幼兒が交るがはる出てお唱歌お遊戯に打ち興

じます。保母の人形芝居等見て後、前日幼
兒の手になつた色紙の香箱にお菓子を入れ
たのを頂き、御一緒にお雛様を眺めなが
らいただきます。

それにて幼児の雛祭りは終り、午後は其
年修了の一年生を各學校よりお招きして久
久に話しあひます。尙其折には一年生擔任
の先生方をもお招待して（小學校との聯絡
をはかる爲）居ります。

下關市立 第二幼稚園

當地下關では雛節句は四月三日で御座い
ますため幼稚園にとりましては大變都合が
悪うございますので當園では二月の末日疊
のお部屋へ正式なお雛様を飾りまして三月
三日には女兒が主となつて男女開誘室（三
十坪）に集まりましてお遊戯の會を致して
居ります。お雛様のお部屋は開誘室とつ
いてゐます。

當日はどのお部屋もきれいに裝飾いたし
て居りますので子供はほんとうによい氣に
なつて男兒も女兒もとりどりな聲で（ひも
もの花にお白酒……）の歌を歌ひます。

山口縣玖珂郡 大呂幼稚園

田舎の漁村のことなれば舊曆三月三日に
非れば眞の趣味を有しませぬ、舊節句なれ
ば地方の娯樂日とも申すべきか、山上りと
てお辨當にて、老幼男女野遊びに午後半日
を過します。依て陽曆節句より内裏雛の軸
をかけて日本人形、青い目の人形等を飾り
てこれを舊三月の節句迄置きます。

陽曆節句の頃より手技として幼児は保母
の指導に依り雛人形を製作して壇に飾りま
す。

又此頃よい人形に關する唱歌遊戯を主と
致します。

節句當日唱歌と遊戯の會を人形の前にて
開きて歸りの時製作品を持ち歸らせませす。
但し都合にては翌日持て歸らせる年もあり
ます。

本年は舊節句は春季休み中なれば此方法
を少し變更致します。

廣島市 錦城幼稚園

お雛祭りは女のお子の遊びに相應しく又
床しいものと思ひまして一年中の重なる行

事の一として居ります。勿論田舎の事で御
座いますから、たいした事も出来ませんが
大正七年頃からと思ひます。

始めは園の廣間に段を設け、内裏様外一
通りのお飾をなし、お子達の手になる桃
の花や、ぼんぼり、草餅などそなへ又お宅
から何なりとお人形を持寄つてお飾をなし
前で歌つたりお遊戯したり、それがすむと
お供へのお菓子をお分ち與へお辨當を持ち寄
つて會食を致します。

昭和五年からそれにもう少し力を入れ、
永い間お世話したためそ子さんややんちやん
方がおとなしく小學校の生徒さんになりま
すので卒業記念遊戯の會に致し度いと考
へから、席を市公會堂に借り、お雛壇を設
け二十種位のプログラムを定め、唱歌、遊
戯、獨唱や席書、單なる唱歌劇など仕込み、
父兄母姉をお呼びして觀覽を願ひ共に半日
を楽しく過して散會致します。尙午前中に
一回お休みを致しまして輕いお菓子を上げ
ることにしてゐます。

長崎市 城山幼稚園

年中行事の一として五月の男の節句と共

に捨てがたい雛様祭につき私の園で行ひました一例を記させて頂きます。

此の地方では四月三日に節句をいたしますが色々な都合で園では三月三日に行ひます。

二月中園児もこの頃いそがしいのよといつて朝餘り早く宅を出ますがと或母様のお話の如く競争して登園し懸命に作り上げられた。

各種人形ボール紙製雛（お正月贈答につかはれた空箱を材料にしたるもの）

煙草の空箱利用の雛

空瓶利用人形

ドンガラ人形

粘土人形等

大廣間たる遊戲室の正面に大きく造られたる雛壇（紅布を垂れ後には紫を張押繪細工したる掛軸もかけられたり）に順々に飾られその前にはマツチ箱ボール箱粘土等にて作られたる諸道具も所狭くならべられその下段にはボール紙製の三寶に菱餅草餅お白酒お菓子も供へ終つたら誰れがいひ出したか蒔繪の箆筒、琴、鑪臺、ホンポリ、等自慢の道具も日々一つ増し二つ加はり段も

次第に廣められる有様。

奇麗だねーと子供の目にはこれ以上のものではないやうに感ぜられるらしい。

女兒は又格別當日青疊にかはつた大坐敷雛壇の前に一同集り代り〜立つては「ひ桃の花にお白酒」と唱歌を歌ひ遊戯も出る次から次にはてもない。

男兒側から談話が出て中々面白そう。

恰度その日その月の誕生會をしてもらふやうに準備してあつたので當番の母様はエプロン姿で臺所も忙はしそう十一時半には心こめられる御馳走のおすじも出來上つて居並ぶお客様の前に一々膳が運ばれる「頂きます」の御挨拶もそこ〜各自二つも三つもおかばりがあるので御給仕の方は轉手古舞鯉腹食べた後お土産のお菓子に又ニコ〜重れ〜嬉れしいことばかり午後他園の先生方。

母様方や附近の叔母様、學校の姉さん見さんも見物にお出下さつて大賑ひ、見物の方へは慣習により用意してあつた紙細工の手さげもあげました。

買物の上等より意義がありますから今年

の節句には之を飾りませうといつて下さつた母様方も幾分あつた。

以上は毎年やつてゐます雛様祭りの大略で御座いますが若し當日折よくお天氣で暖かければ園庭で園遊會を併せ行ふことにいたしてゐます。

福岡縣 博多幼稚園

當園は雛祭り當日三月のお誕生會を併せて催し前日より雛段を設けて菱餅お白酒を供へその前にて面白い童話、可愛らしいお遊戯、お唱歌などをして愉快に楽しく一日を記念して終ります。

大分縣 大分幼稚園

- 一、雛段を設けて雛祭りなす。
- 一、學藝會並に園児の作品展覽會をなす。
- 一、雛祭りに付きてのお話。
- 一、保護者を集めて保育上の打合せをなす。

學藝會、展覽會には現在園児の保護者並に四月より入園する園児の保護

者に案内す。

鹿兒島市 會文舎幼稚園

お節句前に各自御雛様をこしらへさせます。又雛祭の遊戯、唱歌など練習して充分お節句の氣分にひたります。

いよ／＼當日になりますと各自お家より持よりのお雛様や園のお雛様、各自こしらへたお雛様等を雛壇に飾り、菱餅やひも、の花を供へ、男子のお子さんを客としてお互に主客の挨拶を交はし、それから唱歌、遊戯等を致し、最後に菱形の形菓子や配布して其の一部を一緒に頂き、残りはおみやげとして持参致します。

佐賀縣 唐津幼稚園

三月三日の雛節句左記の通り致して居ります。

雛まつり

前日まで飾つけ

手技製作

粘土製作

粘土細工に形色をほどこし

親王、内裏様と橋、櫻、菱形皿を作る豫定

一、園長の雛に因んだ話

二、園児お話

三、唱歌遊戯

お雛様。雛祭

四、茶話會

五、演技

六、各自製作の菱形皿をお土産に渡す

七、二三日の後に雛様をかへす

小倉市 市立幼稚園

なだらかな日々の保育中にも何かを待つと言ふことは幼い時代の思出としてなつかしいものと存じます。此の意味に於て御節句を子供の爲に祝つて生活の充實の一助とも、毎年舉行致して居ります、五日の海軍記念日に端午の節句を男児の爲に致します關係上三月十日陸軍記念日に女兒の爲にお雛節句を舉行致します。

やさしいみやびやかなる御雛殿を養護室(臺の部屋)にしつらへ白酒桃の花のお供へを致します。やがてこれ等の催しが幼児の

爲に幼き思出となり情操の陶冶が出来ます様にと念願致し、子供の幸先を祈つて居ります。園児が多數なる關係と實は男児もお客様として招待し度いのを女兒のみを主人役として午後より集め御父兄をお客様として招待致し雛殿の前にてお話會の後遊戯發表會を致して御目にかげ楽しいまどゝを致します事にして居ります。

(以上掲載順序不同)

幼稚園に慣れるまで

久仁子の母

四四

1. 日曜を恨む

「さうして日曜日があるんでせうね。カレンダーから日曜だけこつてしまふからい。」

十月初の或日曜日の朝「今日はおさうちやま、お家ね。」
喜んでゐる弟には和さないで、カレンダーの赤い札を見つめてゐる久仁子は、いきなりかう號びました。

「まあをかしいこと、いくらお家のカレンダーだけはがしても、幼稚園は今日はお休よ。あなたもいらつしやらないわ。」

「こいつても、依然としてむつこしたお顔です。お辨當がない、お附はいらぬ、時間の制限がないといふので、ねえや初め家族の命の洗濯日である日曜を恨むのは、恐らく久仁子だけでせう。それにしても、

「日曜日よ、永久に来るなかれ。」

幼稚園よ、いつもお休みでないやうに。」

「こいふ無邪氣な、併し眞剣な願をきゝながら、母親である私の胸には、あまりに曲折の多かつた入園以來の久仁子の幼稚園生活が、まざまざと蘇つて來るのです。」

2. 初登園

昭和九年四月九日は、久仁子が初めて家庭以外の生活に踏み入つた日です。生憎私は次女の出生のために入院してゐる家に居りませんでしたので、カづけの言葉一つかけられない離れた境遇ながら、揃へておいてやつた洋服を著けたであらう初登園の我が子の姿を脳裡に畫いて、何か祝福したいやうな氣持で一杯でした。

十一時にお父様と久仁子と三ねえやが、今幼稚園からの歸

りさいふので立寄つてくれました。徽章をつけて、お帳面やお道具も頂いて、何さいふクラスで、受持は新庄先生なご、幼稚園のお話ばかり、ニコ／＼してゐる久仁子、昨日産れた赤ちやんを中心にして、喜びの二重奏も奏でまじき空気が、ねえやの「お返事がお小さくて」さいふのが、少々氣にかゝりながら、まづ／＼初めだからと唯機嫌よく、「これから毎日お歸りに寄つて、幼稚園のお話して下さいね」。

「お約束して歸しました。」

3、母親退院

私のゐない間は、里のおばあ様が、バスの所迄必ず送つて下さるのだが、餘り元氣がないこのこ、ねえやのそばばかりにく／＼、いゝてゐる少しも離れないこのこ、其後聞えてくる情報はあまりかんばしいものではありません。

「ほかの方々には皆お母様がお付きになつて……」。こいはれるのが胸をさゝれる思ひ、かくては一日も早く退院して、十七日大事をこりつゝも我が家へ歸りました。その日の久仁子の生き／＼した姿、ねえやもびつくりしたやうに

「今日はお遊戯もなさるし、お唱歌も何でも皆様と御一緒によくなさいました」。さいふ。母親さいふものは、やつぱり子供に無形の引力があるのだと、その時強く思ひました。次の日お床のそばへ挨拶に来た久仁子を、それこそ母親としての心のすべてを傾けて送り出したつもりでした……、昨日ほきの元氣でないさいふこで歸つて来ました。

「折角歸つて来たお母様は、私のものではなくて赤ちやんのものだった」。

さいふ失望を起したのかもしれないと思つた私は、赤ちやんの世話に時間定めて、それ以外は久仁子達を枕元へ呼んで遊びました。が急に起つた義弟の結婚問題に、私ミ子供ミを結びつける時間は遠慮なく割かれるばかりでした。

4、一策

一日別の下女に弟を伴れさせて迎へにやりましたら、お姉様ぶりを發揮して先生へのお歸りの御挨拶も立派だったこのこに弟の手前ならお遊戯もするかもしれないさいふ

一策が浮びました。翌日から私が弟をつれて久仁子に附添ひました。二日續けて見るに、弟さばかり遊ぶやうになつて少しもお友達に交らないといふので、脆くも失敗です。併し遊戯以外の作業もさうやら皆様と御一緒にしてゐるやうで、お話など伺ふと時々ニコ／＼してゐるのを見るに面白いらしいのですが、唯お教室の隅に家の者が誰か一人居なければならぬのが缺點です。お歸りはとても楽しさうで同方面のお友達さはいつもお手々をつないで御一緒に歸るのでした。

5、家庭に於ける久仁子

月が變り私も大方丈夫になりましたので、家の中をつめて幼稚園化するやうに致しました。夕食をすませて、弟も女中も久仁子にお遊戯やお唱歌を習ひます。私が伴奏がかり、おもちゃのグラウンドピアノを提出したり、蓄音機をかけたります。小さい先生が、「その手を膝に」「その手を――頭に」「いふに、皆の手が一齊に膝に、頭に止ります。」「櫻々彌生の空をば見渡すかぎり……」と歌つて、久仁子と弟のお手々の間をくゞるねえやは、餘りに大きすぎ

ました。こんなに見てゐるだけでよく覺えてくると思ふばかりです。

「こんなにお上手なのに、さうして幼稚園ではなさらないの」。

「さ申しても微かに笑つてゐます。」

「今日は齒醫者にお見せにならないといつて、お泣きでした」いふのが五月十六日、「試験の時はあんなに大人しかったのに……」。さ少々根がつきさうです。

「久仁子さん、今日はお利巧だったのでせう」。

「一寸からかつたら、」

「久仁子、今日は泣いたのに、さうしてお利巧なの」。

「反對に詰問されてつまりました」。

6、最初の父兄會

翌日は父兄會がありました。千故に親の肩身の狭さを感じて先生のお顔もまごもには拜し得ぬ思ひ、倉橋先生のお話が又一々心に應へるこまばかりです。

「お繪が下手でも、唱歌が調子はづれでも、私共では重大視してはゐない。唯健全なる方法、健全なる精神であ

るか否かは、私共の最も心を用ふる所、ここに後者の問題、心の健全でないお子さん位心配するものはありません。——中略

朝出かける時の御子さんの元氣は、正に、帆を張つて、朝の海を漕ぎ出さうとする船のやうなもの、そのうち溢れた元氣を迎へる港は幼稚園です」。

毎朝久仁子にこんなすが／＼しい形容をあてはめられないことは、さては健全なる心に缺けてゐるさいふものか、一體この入園兒數十人中の異例さいふなら、數十人に一人の割の我が儘者さいふわけになるなぞ、いよく／＼親の責任を感じて先生におめにかゝるさ、

「お泣かせすればわけないのですけれど、やつぱり年をとりまして、時を待つやうになりました」。

さのお言葉に涙さへ浮びます。頂いた入園記念のお寫真に久仁子のついてゐるのをせめてもの土産に家へ歸りました。久仁子はさても喜んで飽かず見てゐました。

7、斷然附添を離す

次の週からもうそろ／＼御子様をお附の方からお離しし

たいさの御宣告があり、久仁子は來週金曜日にするさいふことを下女迄お洩し頂きました。それ迄に少しは離れないかしらさ申しませ、力づけても見ましたが、大した進歩も見ず次の週の木曜日になりました。

「さあ明日は又早く幼稚園へゆきませうね」。

さ寢床へ送りながら、明晩の今頃を考へて見ないわけにはゆきません。無理に引き離されてそれから續いて通ふかしら、恐らく幼稚園の洋服を枕元に揃へて寝るのは、今宵が最後かもしれないやうな氣がしてなりません。父は旅行中さて、一人で明日の試練の結果を案じながら何もしらぬ寢顔を覗き込むのでした。

翌日は元氣に出かけました。十時頃幼稚園からお電話、

「今お附を無理に離しましたら、暫くお泣きでしたが、

もう黙つてさてもお利巧ですから、今日はお歸りに御褒美をあげて下さい」

半ば久仁子に半ばこちらへお話下さるやうな先生の御口

調、思はず息をはづませて。

「え、何でも買つてあげますからさおつしやつて下さい」。

お歸りには私が迎へに参ります。」

「まあ久仁子さん、今日はお母様のお迎へよ。」

「いふお聲がはつきり聞えてお電話はきれました。」

「さあ同時に附添つてゐた下女があたふたを戻つて來ました。」

「今日はお室へお送りするなり、先生が」

『今日はさうしてもあなたを離したいのですが、あなたに出來ますか』「さあおつしやるので、何が出来るのか分らないけれど、出來ます」を申し上げてしまひましたら、お嬢様のお手を握つて、『さああなたは早く歸つて下さい』。このこと、わあつと泣き出すお聲に、後髪引かれる思ひでしたが、歸つて來ました。」

「あゝもういゝの、今もう泣きやんでおきなだにお電話があつたのだから。」

「心配さうなのを慰めてやつて早速お迎への準備、いつものお歸りの時間待つてゐるさ、久仁子をつれて先生が出ていらつしやつて、」

「お辨當の時少し淋しくおなりになつたさ見えて、しく

しくなまつてよく召上つてゐませんか。」

「さ」

「けふは上出來ださいふ方ではありませんから。それから御褒美はちよつとしたものを。」

「さかういふ細かい御注意を頂いて、今日はもう歸つてもよいこのこと。」

「あした又先生と一緒に遊びませう、ね、指きりませう。」

「さあおつしやつて、久仁子の小指にお約束の印を下さいました。」

新宿で降りて請はれるまゝに御褒美を與へて、「えらかつたのね、強かつたのね」。頭を撫でゝやりました。「明日の晩はさうなる事か。」

「さあ思つた枕邊に又お洋服を揃へて御褒美の品々も並べて眠る我が子を見る事が出來ました。」

「先生さいふものはやつぱりおえらい。ちゃんとき機を見ることがお出來になる。それに強く出ても子供の心をお傷つけにならない。」

ミ一層感謝ミ敬服の念を深めました。

8、登園前のためらひ

次の朝、

「ねえやが歸るならいや」。

こいひ出しました。土曜日ではあるしすぐ退けるのに遠い處を往復するまでもありませんので、

「控室にちやんミ待つてゐますよ」。

こいつて出しました。後、幼稚園へかういふ條件に出した旨を通じておきました。次の週から必ず朝「歸るかさうか。」を確かめねば出かけません。それに幼稚園の方も宮様がお出でになるミかで御用がおありになつたりして、先生もお差支へ多く、締めたたがもゆるむべく餘儀なくされました。

9、缺席の試み

次の日曜日六月三日長の旅から歸つて來た父は、久しく會はなかつた子供に甘くなつてゐましたので一部始終を聽いた時、

「そんなにいやなら家で遊ばせておいてもよいではない

か」。

こいふ事を洩しました。これは多少心の弱くなつてゐた久仁子には、大きな味方で、今迄曾つて言はなかつたのに「お休みしたい」ミ申すのです。宮様がお成りならお邪魔になつてもミ、次の一週間はさうさう缺席させました。

併しその一週間の久仁子は言ふこゝ爲すこゝ幼稚園の生活以外に出でません。近所の子供が遊びにきても、久仁子が皆をリードしてゐるので、砂場でも、江り臺でも、折紙でも、お繪かきでも、遊戯でも、「幼稚園ではかうするのよ」。こいかにもなつかしさうにそのまゝを我が家で再現してゐます。

一日里へ遊びに參りました。上の弟が、

「なぜ幼稚園へ行かないの、休んぢやだめだね」

ミ申したら、

「あら叔父さんだつて幼稚園嫌ひで、先生におんぶして歸つて來たミおばあ様が仰つたことよ」。

この逆襲には、頭をかいて、進言の資格を失ひました。

下の弟は及川先生にお教へ受けたので、さうかして繪の

方からでも興味を持たせようよ、時折指導してくれてゐましたが、もうこの頃は、

「久仁子ちゃんは望がないね。」

ミ匙を投げた形。おちい様は、

「先生はおえらい先生だよ。こんなに厚い御本をお作りになつてゐる。それに昨夜久仁子が元氣でお遊戯してゐた夢を見たから、もうそろそろ出来るに違ひない。」

おばあ様は、

「久仁ちゃんが慣れたら三越で何を御褒美に買ひませう

ね」

ミそれ／＼に力つけて下さいました。

10、再び登園

一週間の生活状態から考へられるこゝは、

「慣れないミはいふものゝ、かうも根強く植えつけられた幼稚園ならば、久仁子にまつて楽しくない筈はない。

附添ミ離れないミいふのも一つは我が儘から、もう一つは初めにあまりはにかんで、皆様のお仲間に入る機会を逸してしまつたのだ。」

ミいふ事です。それで次の週から又私がついて登園させました。そして先生におたづねして見ました。

「一體こんなに慣れない例がありませんか。」

「えゝ、ありますよ。先年も坊ちゃんでしたが。唯この方の場合はお家と思ひきりよくて、泣いてもあばれても幼稚園へおくミさつさミ歸つてしまはれるのです。それでも終には幼稚園が好きで好きでたまらなくおなりになりました。」

「つゞいて通はせるのがこの子のためでせうか。」

「そりやさうですミも。」

「この子の爲」ミいふこゝを特に伺つたのは、三月五日入園前の保護者會で倉橋先生のお話に大變反省させられた私であつたからです。

「この幼稚園に入つて人格者になるだらうミ期待する方があるならばお斷りします。この幼稚園はむしろ御子さんを惡黨にするかもしれません。但し幸福なる惡黨にしてあげます。私共はいつも御子様の背後にある大きな親心を胸にえがいては、いかにすれば御子様を幸福におさせ出来る

かゝ第一の念願です」。

「子供の幸福」。親にしてもより願はぬ筈はない。併し自分が今迄子供に對する時「よい子」なるものが先に立つ願であつたやうに思ふ。「よい子」必ずしも「幸福なる子」ではない。天來の邪氣のない童心を、大人の道德觀で、狭い小さい世界に押し込めようとしてゐるた危い崖の一步手前で止めて頂いたお話であつたのです。それからすべての規準を「子供の幸福」いふことにおいてゐます。このやうに家庭からまだ離れ難い子供を通してさういふものかを伺ひたかつたのですか、今の先生のお話のお家から見ると、確かに親の「思ひきり」が缺けてゐたさういふことに心付きましたので、むしろ第二の斷然たる御處置に出て頂く事を御願ひして別れました。

11、幼稚園を面白がる曙光

其後一週間ほゞして家へ歸つて來た久仁子が、

「なつきのお話もう一度しませう」。

「さ笑ひころげてゐます。下女が微かに、

「今日は幼稚園が面白くおなりになつたらしいのです」。

「ささやくのです。よくきくミ、次の様な話でした。○

子さん△子さんがお膝を出してそれをペチャ／＼たゝきながら、おまゝごこのお臺所を背にして「ダマレかさんがお家に來ないかな」。ミ節面白くいつていらつしやるミ、新庄先生がお通りになつて、「あらおひざ小僧さんがちやんミお家に來てゐますよ」。ミおつしやつたので、あわてお膝をかくしたお二人は笑ひが止らなかつたこのこと。それを見て久仁子もミてもをかしさうにしてゐたさうです。それで弟を△子さんにして「こんなことしていらつしやつたのね」。ミ無理に膝を出させては笑つてゐます。

又二三日立つて「今日も面白かつたのよ」。ミ今度は自分で話したのは、

「倉橋先生が○さんの親指の爪に顔を畫いて下さつたら、晝食の時廻つていらつしやつて、

『爪の赤ちゃんにも御飯をあげないミ泣きますよ』。です

つて」。

「さいふのです。

それから二十一日又手を握られて附添ミ離されました

が、こんごは先生のいらつしやる所久仁子あらざるなき有様、教官室にでも、本校にでも、ピアノのそばにでも、形ご影の如く、腰巾着の如く、唯お傍についてゐるやうになりました。その頃です。

「久仁子もお家へ歸つたらほんたうの先生になりたいから、お袴つくつて頂戴」。

「お申したのは、早速赤い袴を作りましたら、色が先生の違ふまで少々不服でした」。

12、第二學期

夏休みは相變らずお砂場やお遊戯で、六十日を一日の如く同じ事を繰返しました。休みの終り頃は切りにお友達のお名を思出してはなつかしがつてゐました。

さてこの二ヶ月の成長がさういふ結果になると思ひながら、九月十一日、第二學期の始業式に参りました。この日は皆様もお母様についていらつしやるので、久仁子も離れません。又明日から第一歩より繰返すのか三危んでゐましたら、次の日先生が、「さあ、いらつしやい」。おつしやるに、そのまゝすん／＼いつたさうです。そして次の日

も、次の日も續いて、久仁子もまづ／＼林の組の一員になりました。九月末に下女が歸るなり申すのです。

「昨夜私の折つて差上げた紙バッグをお歸りに皆様持つていらつしやつて、『久仁子さんに折つていたゞいたの、私も、私も』とお見せになりました」。

「みなさん折つて／＼おつしやつて久仁子でも忙しかつたの」。

「ご自分も嬉しさうに口を添へました」。

子供ながらに皆様に伍してゆかれるさういふ自信を持つ機縁もなつたのだらうと思ふに、こんな些細な事實も見のがすこゝは出来ません。

「あなたの紙バッグも、では、大切な役割をつとめたわけね」。

「ご下女にも申してやりました」。

十月十九日には明治神宮外苑で運動會がありました。誰も赤ちやん相手の留守番役は快しきしないので、前半後半に別れて交代しましたが、我が子の初登場に微笑む父が交代の時を忘れてしまつたのも、許すべからずして許すべ

き事でせう。日の丸行進や、兄弟雀は、弟も家の幼稚園で習つて知つてゐたので、一緒に出てやりたいやうだつた。このこに、久仁子の新庄先生も、教へ方は相當なものだ。笑ひました。

十月二十九日は本校創立を六十周年記念日、皇后陛下の行啓を仰いだこが、子供心にも嬉しかつた。見えて、賜つたお菓子は、自分の机の上に載せておいて、人様にはお見せしても、一口も頂かないうちに固くしてしまひました。當日の新聞に出たお姿を、

「これ久仁子忘れるさいけないから」。

こ切り抜いてお帳面に貼つたのも、すべて自分の心から出たこでした。

13、最近の状態

この頃はお家へ歸るこ、静かにお繪かきや、御本讀みで、以前ほごはしやぎ廻りません。幼稚園で思ふ存分飛びはねるので、家では静かにしてゐたいのでせうが、それは初の時代を反對の現象です。四角な真白い布を要求してはその布に繪を畫いてハンケチを作つたり、銀紙チョコレー

トを紙だけ蓄めてお菓子の形に丸めて見たり、幼稚園での作業の片鱗は、久仁子の家での仕業によく表はれて出ます。日曜日のあるのを歎いた久仁子も、今は少々お寢床の暖かさを樂しむやうになりました。そして平日は反對に、家での活動はこの日を以てレコードをします。蓄音機の伴奏に合せて飛びはねる後を、弟がまねして追ひかけます。時には父も、母も、下女も、一緒になつて、大人の生活も今や子供に還元しつゝあるさいつてもよいでせう。

「なれたら御褒美あげませうね」。こは四月以來の言葉でした。併しすつかり慣れてしまふ御褒美などは欲しくないやうです。子供は物を打算的に考へない。行爲を報酬を結び付ける大人の世界より遙かに純真です。一家を擧げて子供の世界に同化し、幼稚園の家庭的延長を計る事が一番よい御褒美であるこに氣付いたので、五月二十五日以来そのための品物は與へませんでした。唯遊ぶ設備については、著々揃へてやるつもりでありますが……。

最近「女子高等師範學校附屬幼稚園」さいふ長い名前が言へるやうになりました。愛校心さいふものはやはり持つて

ゐるご見えて、過日こんなごがありました。里の弟(帝大生)に向つて、

「叔父さんなぜ久仁子の學校へ入らないの、よい學校なのに……」。

ご申しますので、弟は、

「をかしくつて、叔父ちゃんにはそんな學校へ入れませ

んよ」。

ごいふご、自分の學校を悪く言はれたご思つたらしく、

「久仁子斷然怒つちやつた」。

ご生意氣な口をきいて向ふへいつてしまひました。後で

「叔父さんは男だから男の學校へお入りになるの」。

ご説明しておきました。

幼稚園に慣れるにつれて、身體がリズムカルになつたのも一つの進歩、家の中でも、路上でも、プラットホームでも、スキップや遊戯のフォームが、手に足に、隨時に出るのです。最初通園時間の長いのを心配したものゝ、その頃のビチ／＼した元氣に充ちた久仁子では、氣分の上ですつご短縮出来るやうに思ひます。

寝る前に自ら「考へたお話」ご名付けて所望します。弟の桃太郎や、兎ご龜、浦島太郎なごの昔噺以外の意味です。

でもその虎の巻は「幼兒の楽しむお話」なので、「これ先生ご同じね」ご時々脱線します。そうして安らかな眠に入る久仁子に、明日は又楽しい幼稚園が待つてゐてくれるのです。

* * * * *

親以外に自分を可愛がつて下さる先生の存在を知つた久仁子、自分ご同じ世界にゐるお友達を持つ樂しさを知つた久仁子は、今や眞に「幸福なる子供」の部類に入れたごいへませう。

やはらかき性の芽生えのいつ方に

むくもたやすきおそろしさ知る。

(昭和十年一月二十五日記)

兒童心理學文獻抄 四

牛 島 義 友

田舎兒童と都會兒童

三 社會的環境

前回は人間性を構成してゆくに重大な關係のある環境の中主に家族的家庭的環境を考へたが、次に子供の育つ社會、その代表的なものとして都會と田舎に於ける兒童の精神の相違を考へて見る。

地方から都會の學校に轉校して來た兒童は多く無口で控へ目で小さな所に注意が行き届かず、即ち氣が利かなくてぼんやりしてゐる而も粗野である爲に劣等生扱ひにされる事がある。併し都會生活に慣れるに従つて意外にも智能が高く而も底力のある事に驚く。之に反して地方の小學校に

東京の子供が轉校して來るに全生徒の驚異と羨望の對象となりその巧者な言葉遣ひと積極的な態度によりいかにも聰明らしく見える。併しこの英才兒が間もなく地元の生徒に追ひ越されてしまふ事は屢々見られる現象である。

之は都會兒童が田舎兒童より智能が優秀な爲であるのか、或ひは全く相異がなき爲であらうか、色々研究して見るに、都會兒の方が智能が幾分優秀ではあるが兩者の相違點は智能の程度よりも寧ろ智能の性質が異なる事にある様である。即ち智能検査なきをして見るに言語的検査即ち質問に答へたり説明する等言葉を以て答へねばならぬ様な検査では都會兒童の方が優れるが作業検査即ち命じられた事を實行するのに言葉を必要としない様なものでは田舎兒童の

方が優れてゐる。云ひ直せば都會兒の智能は言語的であり、田舎兒の智能は實際的である。

小木會恩、小林晃夫「都會兒童と田舎兒童」(心理學研究第五卷、一九三〇)は此の智能の性質の相異を見る爲に東京の某小學校六年生と信州某村の小學生に聯想實驗をしてゐる。その結果を見るに例へば「お祭」云ふ言葉に對し田舎兒は「遊ぶ」都會兒は「お神輿」が一番多く「雨」に對し前者は「ぬれる」後者は「傘」が多く、「高い」に對し前者は「山」後者は「低い」が主になる云ふ風に聯想語の中に都會生活と田園生活の相異が反映してゐる。此の事を少し分析的に見るに都會兒童は田舎兒童に比し概念的抽象的聯合が多く田舎兒童には經驗的具體的聯合が多い。例へば

長い	に對し	都會	田舎
短い	道		
白い		黒い	雪
時計	時間	鳴る	
蟬	夏	啼く	

又都會兒は客觀的な靜觀視した言葉を聯想するに對し田

舎兒は自分に即した主觀的動詞的語を以て反應する傾向が見られる。

都會	田舎
困る	貧乏
痛い	怪俄する
茸	山
	食べる
	悲しい
	せつない

次に聯想語の種類は田舎兒童の方が多くなつてゐる。即ち田舎の子供は刺戟語に對し自分に關係ある個人的な言葉を聯想するのでその種類が多いが都會兒の方は「高い」に對し「低い」の如く抽象的に考へるのでその答が相互に類似して來るのである。

次に記憶を見るに一般に都會兒の方が成績がよかつたが都會兒に多く聯想された言葉の記憶は都會兒の方がよく覚えて居り田舎兒童に多く聯想された言葉を記憶するに田舎兒童の方がよく覺える。

次に物の説明の仕方を見るに考へ方の傾向が分る故に「風」は「さんな」ものですか「等の質問をした所、之に對し都會兒童に「空氣が揺れる」風になります」云か、「空氣で出來

た物です」等の智的分析的説明をなす者が多いが、田舎兒童は經驗的具體的説明をなして居る。例へば「表なきでピュツミ吹くもの」も「寒いもの」「手も足も耳も目もなく世界中さんで歩くもの」「木が息をして空気が揺れるもの」等の答へ方をして居る。

小林晃夫「都會兒童の遊戯と田舎兒童の遊戯」(心理學論文集第四輯、昭和八年)

又遊戯なきの種類も農林ミ都會ミでは異つて來る。東京ミ埼玉縣下の小學兒童約一千五百名に一週間に互つてその日その日に遊んだ遊戯、最も面白かつた遊戯及びその友達なきを日記につけさせた所次の様な色々の結果が見出されてゐる。

先づ遊戯の種類は都會の方が田舎よりも多い。之は各學年を通じて明瞭に現はれてゐる事でその原因としては田舎には新しい遊戯は中々移入されぬ事及び田舎人の保守的傾向等が考へられる。又田舎では學年が進んでも遊戯の種類に大した變化はないが都會ではかなりの消長がある。例へば女の子ではお手玉、かくれんぼ、ふざけっこ、人取り等

の類は漸次減少し、之に代つて人形あそび、編物、まごころ等の家庭内のものに變化して行く。之に反して、田舎は、鞠つき、石けり、はしごだん、なきの簡單な遊戯が、各學年を通じて何ら變化する事なく壓倒的に行はれて居る。

又遊戯の種類は田舎では素樸的なもの例へばぶつけ、石けり等單純なものが多く、都會ではもつみ技巧を要する知的なもの、即ち野球、馬飛び等が多い。

又都會では室内遊戯が多いが田舎では大部分戶外の遊戯である。之は田舎兒童は室内で遊ぶ玩具は持たぬが戶外には廣い自然が解放されてゐるも云ふ事にもよるが、更に彼等は室内で遊ぶ時間がないも云ふ事が大きな原因である。

即ち家に歸るミ子守は、落葉掻き、稻刈り、芋掘り、車挽き等の家の手助けをせねばならぬので都會兒童の様な遊戯をする事が出来ない。而して彼等はかゝる仕事を勞働としては感ぜず、遊戯として感じてゐる。即ち一番面白かつた遊びとして以上の様な作業を擧げるものが多い。

その他友達の数なきも都會兒では色々の種類の友達があ

るが、田舎では限られた近隣の児童のみである。

尙田舎児童の性格的特色に就て詳細な研究をしたボーデ氏及びフックス氏の言を借りて田舎児童を特色づけて見やう。

「田舎児童の心理」(P. Bode u. H. Fuchs: Psychologie des Landkindes)

田舎児童は自然との密接なる關係、健康なる身體、特殊の遺傳素質、並びに彼を取巻く特殊な社會關係によりその性格が構成されて來る。例へば普通の児童では青春期に反抗期が現はれるものであるが、田舎児童に於てはかかる現象は餘り著しく現はれて來ない。之は田舎児童は極めて自然的な生活をしてゐるので周圍に對し矛盾を感じたり、壓迫を感じる事が少い故に反抗的でないのである。併し又その爲に自我の自覺なごも著しくはない。

又田舎の農夫なごは自分の村にあつては萬事を熟知し、自信を以て確實な歩みで生活をしてゐるが一步村を離れると全く恐懼おく所を知らぬ有様であるが、その子弟も同様である。即ち彼等には自分等の世界と他の世界とが明瞭に

區別されて居り、所謂頑迷な排他的傾向等が養はれて來る。

又彼等の踏襲してゐる習慣には完全に融和してゐるが、異なつた風習、流行に對しては強い驚愕と嫌厭を抱く。今日田舎児童に於ける代表的性質を擧げて見るに、

一、非社交性

二、剛健性、彼等は身體の方はすみやかに生長してゐるが精神の方は徐々である爲に態度が粗野であり、又女も男も同様な仕事、遊戯をする所から女らしい繊細さが缺けて來る。

三、實踐性、彼等は早くより家業に參加するので實際的な目的な傾向が強くなる。單なる遊戯には無關心で競技に於ける名譽心等は乏しく、それよりもむしろ家業の興廢に深い關心を有す。

四、感動性、彼らは生活に於ける些細な出來事に對しても容易に感動し、共に喜び共に悲しむ。併しその感動性は衷心より流れる情緒ではなく表面的な感情の發露である。

五、素朴性

六、悠長性、

以上の諸性質によつて田舎兒童が理解されるが、一言に言現せば自然的である事が彼等の本質云へよう。

さて以上の如き社會に育ち自然的な生活を送つて生長した兒童は生活に對する考へ方もそれに影響される。例へば將來の職業に對する希望を聞くにライウンゲル、及びミューレルの研究によるこ都會兒は事務的職業に就かんさ欲し、田舎兒童は農村業に従事せんさする。同じ工業希望者でも都會兒童では電氣、機械、金屬加工、衣類工業の方が多いが、田舎兒童では木材加工、建築、食料品工業等の希望者が多い。此の職業希望の動機をうかゞふに田舎兒童はその仕事が好きだから云ふ者が大部分であるが都會兒童では兩親の希望によるこか親の職業を繼ぐこか自分の目的理想實現の手段みなすものが割合に多くなつてゐる。云ひ直すこ都會に於ては兩親並びに兒童自身が職業に關し重大な關心を有してゐるが田舎に於ては割合に無關心になつてゐる。

尙最近日本に於ては農村子弟の離村問題が問題となつて

るが、青木、河野氏(村落社會の智能構成に關する調査、村落社會學會報、第二輯)の研究によるこ居村的職業を選ぶ兒童は智能の低いものに多く、離村的傾向は智能の高い者に多く、又都會近くの村落よりも山村にこの傾向が多い。この傾向は農村の智能水準を低める事となり農村の困窮化に一層拍車をかけるものである。

以上の如く都會で育つか田舎で育つかによつてその者の精神生活の様相が著しく相異して來るがその他大都市こ小都市、工業都市こ商業都市、或は學校都市によつて影響される所は各々異なるし、同一都市でも山ノ手こ下町で子供の生活傾向、氣風云つたものが相異して來るのは衆知の事實である。故にその教育もかゝる社會環境に相應した方針に基かねばならぬし、又その兒童にこり不適當なる場合にはその環境を變へてやる事が甚だ必要である。

小さい猛者連

附屬幼稚園 菊池フジノ

小さい組も一年経つて大きい組になり、そろ／＼我が世の春を唄ひ始める五月頃からであつた。

園のあちこちから「池の組の男の方が……」「池の組の男の方が……」と云ふ聲を耳にした。毎日の様にこの苦情がきこえる様になつて來た。子供が歸つたあまで職員室に戻つての先生方のお茶飲み話の中にも、「私の方が池の組に負かされて……」等云ふお言葉も一再ならず伺ふ様になつた。

併し大きい組が三組ある中、他の二組の御子さんは揃ひも揃つて落ちついた、いゝ體格のお子さんばかりなのに、之は又さうした廻り合せか、私の組の男の子は揃ひも揃つて小粒で、然も少數、そして何れも氣の小さい人ばかり。十二人中、二人程は殆んゞグループに入らず、三人は入る時もあり入らぬ時もありと云ふ工合、残り七人は、常に小さき

一人のリーダーを中心に一隊をなして、他に向つても働きかけ、又自分達でも團結固く遊んでゐるのである。こんな工合なので、實は、負かされて……と伺つても、負けてゝ下さるんだらう位に考へて、そんなに暴威を逞うしてゐるなんてことは、思ひも寄らぬ事であつたのである。

ミころが忘れも出來ぬあの光榮の日、若葉薫る六月の十六日、李王妃殿下を幼稚園にお迎へ申し上げた日の事であつた。御台覽が室順になされて、私の組は最後であつた。

その時、私の組は、半分程の人は粘土を、半分程の人は水族館の仕事をしてゐるミころを御覽に供したのであつた。この時、粘土の作品の中には、さうしたはづみであつたか、大口を開いてもの凄く牙をむき出してゐる鰐が三匹も出來てゐた。

いよく御台臨になつて、親しく御歩みを子供達のそばまで寄せられた。この時倉橋先生が、

「この鰐はあなたがお作りになつたの？」

ミ子供等に向つておたづねになつた。するに元氣溢るゝ聲で、中の一人がお答へ申し上げた。「吾が輩」。

妃殿下はにつこり遊ばされた。お伴の方も私共も一同さつと笑つた。續いて他の一人が「これは吾が輩はては「これはじやが輩」ミまでお答へ申し上げる様になつた。私は形勢如何になり行くらんミ、はらくして見てゐたのであつた。

倉橋先生は、

「この人達は、幼稚園中の猛者もさでございます。これでも今日は、餘程、御遠慮を申上げて居るのでございませう」
ミ妃殿下に申し上げて居られた。

これを伺つた時からであつた。私の組の兒は、そんなに猛者なのだらうか？ 幼稚園中の猛者なのかしら？ ミほんみに思ふ様になつて來た。それからである、私の目が絶え間なく、この暴威を振ふ吾が一團の子等に向けられて

來たのは。

突進

お辨當の片附けもまだ濟まない或る日の午後であつた。例の一聯隊の連中が盛んに各々の椅子を廊下へ持ち出して行く、出て見るミ、みんな椅子を倒まにして横列に廊下一ぱいに並べてる。みんなはそのかげに蹲つて、遙か向ふにねらひをつけてゐる。相手はミ見れば、お部屋を二つ隔てた山の組の男の兒。之も同様椅子を倒まに横に並べて、こちらをねらつてゐる。

やがて小さきリーダーが、吾が方の伏兵に向つて突喊の號令をかけた、ミ忽ち小粒の連中、椅子を倒まのまゝ廊下を走らせて山の組に向つた。丸で鐵砲丸みたいに向ふ見ずに進んで行く。段々敵に近づくミ、暫くは列を亂さないでゐた敵も一人入り二人入り、遂々みんなお部屋の中へ引込んでドアを閉めてしまつた。廊下に面した窓の硝子戸も閉めてしまつた。中でぎんなにしているかは、スリ硝子の窓故、知る由もなかつた。しばらくして、敵の大將通雄君

は、お窓へ乗つて、一番上の透硝子の所から廊下の形勢を覗いてゐた。

こゝまで見届けて私は、吾が軍に聲をかけた。「もうお部屋へ歸りませう。お椅子をそんな事（倒まにして廊下をすり歩く）するに毀れますよ。毀れるにせうその方はお辨當の時立つていたゞかなくちやならないわ」云ふに、食べる事に忠實な小勇士たちは、すぐさま起こして両手でお部屋まで持つて歸つた。

しばらくするに入口にヤアヤアミ聲がして五つ六つの顔が覗く。さつきの山の組の連中である。吾がリーダーが、「ソレ！」ミ聲をかけるに小粒の連中、取るものも取りあはず彼等の後を追ひつめる。敵は一目散に逃げこんでお部屋のドアを閉める、追手は山の組の閉されたドアの外に、ガヤガヤしてたかつてゐる。又行つて引き連れてお部屋へもぐる。やがて又入口にドヤ〜ミ聲がする。「ソレ！」ミリーダーは聲をかける。追ひつめる。向ふは逃げてドアを閉める。こんな事が又繰り返されやうにするので、兩軍に向つて、戦争中止の談判をしやうに廊下へ出たら、山の組の先

生も出てゐらした。先生も私も兩軍に向つて、「もう之で止ませうよ、からかつたり、追つかけたりするのはおしまひにませう」云つて兩軍を各々のお部屋に引連れては入つた。お歸りの時間も直ぐだつたので、この日は之で事なく済んだのであつた。

野 球

社會的な或る行事が、子供等遊びの中に可成り澤山入り入れられるものであり、従つて幼稚園の自由遊びの時にも屢々之が見受けられる。例へば九月の中旬にはお神輿、十月の半ばには野球、一月半ばにはお相撲云つた様に。

丁度十月半ば頃だつた。中天に上つた日本晴れの陽ざしを一ばいに浴びながら、海の組の男の子供達は全員總出云つた形で、吾が池の組に面したあたりの庭を占領して、野球に打ち興じて居た。

例の吾が一聯隊の男の兒は、いつもの根城ねじろの遊戯室前のテレスで大積木に餘念がなかつた。併し、海の組の子供達の野球が熱して來て歡聲があがる毎に、大積木の連中は手

を休めてはこちらに見入るのであつた。段々自分達の遊びが白けわたつて来た。その中、例の大將は二人の仲間ミ、野球の方へやつて来た。他の人達も思はず知らず、これにつづいた。そして、バッターやキャッチャーのあたりへ来て、球の来るのを邪魔し出した。みんながみんな、一二度づゝ手を出してはいたづらをする。温良な分別ある達夫ちやん等は、ほんまにお義理でするミ云ふ様な、誠に氣の乗らない仕方であつた様子は、見てゐるものにもよく讀めたのである。先方の口説き役の稻川昭ちやん等は、自分の持場を捨てゝこゝまで出て来て、このやんちや達にいろ／＼口説いて居たが、なか／＼に急には止めなかつた。海の組の先生は黙つて、この様子を向ふから見てゐられた。私は海の組の子供達に心で詫びながら窓のかげにかくれて、子供達には見えない所でこの有様を見てゐた。

こちらの連中、兵隊ごっこはよくするが(リーダーが軍人の方の御子さんのせいであらう)野球の事は、あまり良く知らないせいもあつたらう。又海の組の先生が向ふで黙つて見てゐられたせいもあつたらうか、いたづらにも興が

乗らずに一隊は自分達のお砂場に引上げてしまった。そして、二班に分れてお砂場の端ミ端ミを占領して塹壕を掘り、又自分達の戦争ごっこが始まつたのである。

私は手ぐすねひいて、好機到来さばかりに悦んだ、ミ云ふのは、この頃、このリーダーの横暴が目立つてひきくなつて来たからである。お話だミ云つても、お仕事だミ云つて呼んでも、このリーダーが「行くなよ」ミ一聲かければ、否、聲の無いうちから何か指令があるものミ、みんなが一應はリーダーの顔を見るのである。「行くなよ」ミ聲のあらうものなら、みんなにしたつて仕事になんかは入つては來ないものである。折角仕事には入つてゐてもリーダーが外へ出れば、もうそのグループの連中は浮腰で、お仕事なんぞはほんのお義理ミ云つた様に、さつさミ片附けて出てしまふのである。面白い思付きだからこれを一ぱいに充實指導をして、相當なものに仕上げ様ミ意氣込んでも、リーダーの様子一つで誠にあつさりミ「もういゝよ、之で止すよ」ミ片附けてしまふ有様。で始めはさうかして、このリーダーを落ちつかせて仕事に長く引き入れて置かうミ努力して見たが

このリーダー君、面白い創意は充分あるのであるが、長續きはあんまりしない方で、仕事には至つて恬淡さしたものの。こんな工合なので、今度はさうかしてこのリーダーの力を殺ぎ度いものゝ願つて居た折も折だつたからである。

私はこんな事を思つても見た。即ちリーダーの力を殺ぐには、萬人が悪いと認める事をし出かした時に、それをみんなで論議してそれは悪い事だを納得させたら、幾分かは、リーダーの權威を減ずる事が出来るか。

で今日の事件は正しく自分達が始めに手を下したのである。そしてリーダーが最初に自ら手を出して邪魔したのである。自分はこの事件の始めから終りまでを、確かに見届けたのである。この強味に力を得たので、今日は一つ、この事件をみんなで評議して見やうと思つた。之をこの記憶の生々しい中、今日のお辨當の前にしようと思つた。でいつもより少々早めにお辨當のお仕度に取りかゝつた。やがてお仕度も出来たのでみんなをお部屋に誘つた。仕事の時には全努力をしてもなか／＼は入つて来ない人達なのに、お辨當の時だけは待ち兼ねた云ふ様子では入つて来

る。可愛い、限りだ。私はお辨當の用意をして、リーダーの一人おいた隣りの椅子に座を占めて、みんなのお仕度の出来るのを待つた。

みんなもいそ／＼急いで、やがて、静かになつた。いづもならこゝで「いたゞきませう」と言つて、お辨當を開くのであるが、今日はそうはいかない。私は徐ろに口を切つた。

「あのね、さつきこゝのお窓から見てるたら、男の方達、

みんな、海の組の方が面白さうに野球をしてゐらしたところを邪魔をしましたね。あんな事するのいゝ事でせうか、成信ちゃんが一番先きにしましたね、そしたらみんながそのまねをしていたづらをしたのね、あんな事いゝ事？」

「悪い事」「悪い事」を方々から聲がした。

私「浩ちゃん、悪い事つてよく分つてるのに、さうして真似をしたの？」

返事がない、

私「清ちゃんはどうしたの？」

清「だつて、成信君の通りにしないさ、池の組の男の人は、

みんなあつちに（自分の敵にの意）なるんだもの」

今度は成信君に向つて、

「ね、悪い事をして見せて、その真似をしないからつて

いじめたりする様な大將は、日本の大將じゃないと思ひ

ますよ。君がよく話すあの馬賊の大將ならね、やれあそ

この家から鶏を取つて来いの、牛を盗んで来いのつて、

悪い事を言付けてさせますけれどね、日本の大將はみん

ない、事ばかり教へて下さるんだと思ひますよ、君、

お父様に伺つてご覧なさい」

この間中、子供達の間にも權威がある等々は思

ひも寄らない温順さで、うなづいて聞いて呉れる。こゝで

止め様かきも思つたが、扱てこないだは、みんなに命じて

康夫さんを打たせてゐたし、又その前には善治さんを使い

めさせてゐた事もあつたと思ひ出して、又思ひ返して攻勢

に出た。

私「ね、こないだは、康夫ちゃんをみんなに言付けてぶた

せてゐたでせう。それから善治ちゃんをいじめた事もあ

りましたね、

さうでせう。そんな悪い事をみんなにさせなくなつたら

又大將になる様に、しばらく新兵になつてゐませう。そ

の間でなにかに大將になつていたゞきませうね？」

「云へば、又さつきのすなほさで承諾する。」

「ウン、僕新兵になつてゐるよ。悪い事しなくなつたら又大

將にしてね」

「云ふ。後日又大將にする事を約して、扱て今度は、み

んなに向つて云ふ。」

「じゃ、その間、あなたが大將になつたらいゝでせうか？」

女の人達はみんな「清ちゃん」「清ちゃん」云ふ。男の人

達は四人程清ちゃんを云ひ、二人程は省さんを、云ひ、

二人は達夫ちゃんを云ふ。その中無邪氣一ぱいのあざけ

ない顔をした善治さんが、「僕が大將がいゝや」云ひ自薦運動

をしたのには、思はず爆笑してしまつた。漸くに取り繕つ

て、今の口投票の結果に結末をつけて、清さんが大將にな

る事になつた。他の人達は「僕は参謀だの」「僕は中隊長」だ

のミロク々に自分の位置を語り合つてゐた。之で一段落が

いたのでお辨當にした。

お辨當の空を職員室に置いてお部屋にもぎつて見たら、これは又さうでせう、いつもは、早く食べ終へて、お遊戯室前のテレスで、さつきのつゞきの遊びをして成信君の濟むのを待つてゐる連中なのに、成信君が外へ出すに、窻際のスチームの所で繪本を見てゐたら、みんなが遊びを止めでは入つて来るではありませんか、そして成信君を中心にみんな頭を集めて繪本に見入つてゐるのです。今が今、成信君の悪を認めて、成信君が大將でなくなつた筈が、事實は、依然として成信大將なのである、

愚かなる保母の長い間の信念、リーダーの力を殺ぐ方法としての第一段の構へは、一瞬にしてものゝ見事に敗北したのであつた。

* * *

消防隊

朝夕は肌寒さを感じられる様になつた十一月の或る朝の事だつた。お部屋のドアを開いて、テレスへ出て庭を見るに、まだ、出揃はないと云ふまばらな子供達の群であつ

た。

海の組の子供達は八九人、みんなハンカチを頭に被つてその上から帽子をぶかり、消防隊ごつこをして、お山を降りたり登つたりして元氣に遊んでゐる。私の組の子は男の子が四五人だけ庭に降り立つた。

例の大將成信君に浩君、達夫君、清君の四人は外套を頭からかぶつて、その上から帽子をかぶつた、とても妙な扮装である。この四人は外へ出るさいつもの根據地へは行かずに、消防隊の、登つたり降りたりする、山への登り口の芝生に腰を下した。こちらから見てゐるに、睨めたり手を出したりするわけではないが、何かしら消防遊びに引かゝつて居る様に察せられる。今に邪魔を始めるかも知れないと思つて見てゐるが、容易に手は出さない、唯時々景氣よく、口でぶうく云ひながら走り廻る消防隊の方を振り返る位のところであるが、あの虚勢をはつてらしい扮装云ひ、様子云ひ何きなしに引かゝつて居る様だ。

私は下穿きに代へて、この四人のそばへ行つた。そして圓木の端に腰を下してこの人達と向ひ合つた。私はにこ

にこし乍ら云つた。

「あなた方何していらつしやるの？こんな所で」

「くたびれたから休んでんの」ミ成信さん、

「でも来たばかりぢやありませんか、まだ何もしないのにくたびれるなんておかしいわ」ミ、云つて見た。この人達の心の中のわだかまりが、ほころびるかと思つて云つて見たが、一向に反應がない。四人ミもにこしくしながら黙つてゐる。

この人達は、心の中のわだかまりを私に向つておしかくす程老獪では勿論ない、ミ云つて、そのわだかまりを意識してゐる様子でもない。何か心にあつたミしても、これ程淡いものを、私が出て来てわざ／＼それにさわつて明るみへ引出すなんて、非教育的な事だ、止さう、そしてこゝを去つてあちらから後の形勢を見て居やうかミも思つた。併し何だか心の中のものにさわつても見度い氣持だつた、で考へた。それに觸れて見た所で、後の指導よろしきを得れば一度だけでそう有害な結果にもなるまい。こんな理窟をつけて、自分の好奇心の満足を得やうミ試みた。私は思ひ切

つて、ほんミに思ひ切つて露骨に云つて見た。

「あなた方、海の組の男の方が、消防ごつこをして遊んでるの氣に入らないの？」

するミ達夫君、思ひきりよく、にこしくしながら、

「ウン、ちつミ癪だね」ミ傍らの浩君を振り返る。

浩君も「ウン」ミ同意した。

「どうして？」ミ私は尋ねた。するミ達夫君

「だつて僕達、あれを昨日の午後してたんだもの」

ミ云ふ。で私

「そう、昨日あなた方してたのを、他の組の方があゝやつてしてるのが氣に入らなかつたの？」ミ思はず納得した。が直ぐ又つゞけた。

「だつてね、あなた方が昨日あれをしてるたのを見て、面白そうだミ思つて見てゐらしたんでせう。だから今朝、来るミすぐあゝやつて、皆さんでしていらつしやるのよ、何もそんなに癪にさわらなくなつていゝのよ、ね、面白そうだ、いゝ事だミ思つたから真似なすつたんで、怒るわけありませんよ」

ミ云ふに、四人も黙つて芝をむしりながらにやく／＼笑つてゐた。そうこうしてる中、みんな立つて、ポツポツ歩いていつものテレスの方へ行つた。そこで、大積木を取り出して、遊び始めた。

消防隊の連中は相變らず威勢がよい。

私はテレスに向ふ子供等の後姿を見ながら思つて見た。あんなにこわがつて、觸れるべからざるものに觸れるミ云ふ、その氣持の中にはむしろ捨鉢的な氣持さへも挾んで敢へて觸れる事をしたのに、觸れて見た結果が却つて、良かったのではないかしら、大げさな言ひ方ではあるが、カタルシスをさせた様なものではなかつたかしら？

あゝして行く後姿の中には、そんな「癩だ」なんて云ふ心持はもう消え去つてしまつたミ云ふ様子があり／＼、見取れたからである。

二 月

軒ごとに梅の花咲き乾びたる枯田の里に
けふは雪ふる

いぶせみてみればあたりの低山に白梅の花
咲きしづもれり

ひそまりて久しく見ればとほ山のひなたの
冬木風さわぐらし

庭くまにこほりつきたる堅雪に音たて、降
るけふの雨かな

しみじみとけふ降る雨はきさらぎの春の
はじめの雨にあらずや

(若山牧水)

東京女子高等師範學校前教諭
東京市本郷大和村幼稚園保母

坂内ミツ先生著 (普及版)

四六判美裝函入
フクリガナ付
附贈人二二〇頁

定價 一圓
送料 十四錢

子供の遊ばせ方

☆文部省推薦圖書☆

遊びは子供の生命
である。家庭に在
つて子を育て幼稚
園に在つて子を遊
ばせる場合これ丈
の心得があつたら
と感心させる本!

遊びは子供にとつて實に重大な役割を持つてゐます。よい遊びに導
きよければ子供の生命であるといふことは、自然に遊ばせたいことと
かゝり解を持つてやるべきである。自然に遊ばせたいことと、遊ばせ
のが、解を持つてやるべきである。自然に遊ばせたいことと、遊ばせ
來ません。愛する。何故ならそこにこそ正しい教育があるから知れないも
著者坂内先生は女教師として、附屬幼稚園に止まり、實に十二
ケ年の餘この書を著した。母として、今新しく普及版が出て、實に十二
念を得てこの書を著した。母として、今新しく普及版が出て、實に十二
ケ年の餘この書を著した。母として、今新しく普及版が出て、實に十二

先生とお父さんお母さん

先生から 生きた教育實話

幼稚園 おゆき

幼稚園 おはなし

* 家庭と學校との連絡、それには
お父さんやお母さんに是非これだ
けのことは知つておいて頂きたい
送料 北崎永榮先生著
定價 一圓十四錢

* 一つ一つの先生の尊い體験から
生み出された感激に充ちた實話だ
是非分つて貰ひたいだけのコッパ
送料 大谷恒郎先生著
定價 一圓十四錢

* 指あそび折紙あそびその他十九
種の面白くて新しい子供の遊戯
を集む。納入り曲譜付で平易な本
送料 長尾豊先生著
定價 一圓十四錢

* 幼稚園や低學年の子供に親しま
れる新しくて面白くそして教育的
なお話二十四を集めた話方新話材
送料 長尾豊先生著
定價 一圓十四錢

町番六下・町麩・京東
行刊閣生厚

番八一二三(33)段九話電
番〇〇六九五京東替振

東京女子高等師範教授
同附屬小學校主事
文部省學校衛生官

堀七藏先生序
大西永次郎先生序

日本赤十字社救護部長
東京女子高等師範
同附屬小學校、幼稚園

高橋 篠崎

高先生序
ハル先生著

學校衛生 兒童養護の實際

四六紙定價
總數三圓二角
布製二圓四角
函製二圓
全入一冊
美頁餘十二錢

保母の生活 學校衛生 指針

內容大綱

- 一、教育に於ける養護の必要
- 二、學校に於ける設備衛生の實際
- 三、教授衛生の取扱
- 四、體育運動に於ける看護
- 五、學校に於ける衛生養護の實際

- 附錄(文部省令)
- 1 學校清潔方法
 - 2 學生・生徒・兒童身體檢查規程
 - 3 學校傳染病豫防規程

著者は我が國の學校看護婦事業創設の當初より、文部省學校看護婦として多年東京女子高等師範附屬小學校及幼稚園に於て學校養護の實務に従事せられ、深き研究を永き體驗は實に貴重なる本邦學童養護の文獻なり。本書は其の豊富なる資料を基とし、各方面の學校衛生に關する講話を參酌して、教育の基礎であり、保育の大半を占むる養護の實際を指導せられたるものである。されば學校看護婦はもより教師・保母等の實際家の良參考書たるのみならず、一般家庭に於ても父母・兄弟の好伴侶として推奨する。

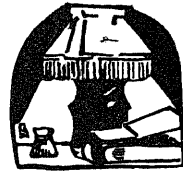
東京女子高等師範教授
同附屬小學校主事
堀七藏先生著

歐米の幼稚園及 低學年教育の實際

四六判函入全一冊
總數五三〇餘頁
紙數五三〇餘頁
寫真六〇餘幅
定價金二圓八拾錢
郵稅金拾四錢

東京市神田區錦町一丁目二番地
三 元 堂

振替東京七九四〇九番
電話神田五三三番



あなたの机上へ

民族性と神話

松村武雄著

わが國童話教育並びに神話學の權威として高名なる松村氏の近著である。書名でも知れる如く、世界各地の民族性と神話との交渉關係で、神話が如何なる程度に民族性や民族精神を寫し出す淨玻璃となつてゐるかを、ごく平易に且つ興味的に解きほぐされたところの書である。

各個人が個性を有つと同じく諸民族は、民族としての個性を有してゐる。これが神話の構成内容を如何に決定してゐるか、いかに反映してゐるか、又學界で如何に取扱はれてゐるかに就いては序説に委しい。次に章を分けて各民族のそれについて説かれてゐる。

一、埃及人の民族性と神話——死後の

生活を重く見る。従つて墳墓に對する關心と努力が非常に強く、ためにピラミッドの出現を見たと言はれてゐる。現世を面白く享樂し、その上で死後の肉體な大事にして再び現世に還らうと希つた。その神話は、如何に様々の呪術的宗教的手法を嚴守すれば目的が達せられるかを説いたものが多い。

二、希臘人の民族性と神話——現實世界を心から肯定し、知力的理性的な心性、整正調和への憧れ、美の執着が強く、死後の生活を極力嫌惡した。神々の形が動物態で現はされる事は殆んど無く、人間生活を愛好する結果、神話に於ける神々が殆んど人態的である、所に特異性を持つてゐる。

三、羅馬人の民族性と神話——羅馬人

は實際的功利的で、秩序組織を愛し堅忍不拔の氣象と勇武心に富んでゐる。神話も國家をより強健にし、國民をより道德的に利用する實用的な行き方であつた。國家建設を説くものが多い。

四、北歐人の民族性と神話——荒削りながら壯大味があり、遲鈍と見えて持續力が大であるこの民族の神話は、素純な雄大味、剛健な英雄主義なものが多い。

五、ケルト人の民族性と神話——豊かな想像力と微妙な詩的情緒に恵まれた民族である。神話は神祕な國土の美と怪異とで充ち満ちてゐる。

六、日本人の民族性と神話——日本神話を貫く主旨は國家皇室を中心とする建國精神である。之が我が國神話の冒頭に於て力強く現はれてゐるのは周知の事である。保姆であるから、童話に興味を持つてゐるからといふ理由は兎も角、日本民族の一人として斯ういふ本は讀んで置くべきであらう。

(培風館、參圓八拾錢) 新庄よしこ



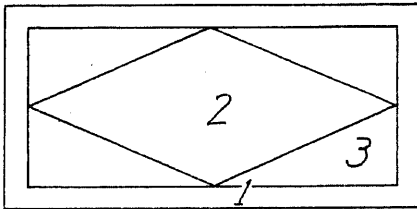
二三月の仕事

暖かい春を迎へるに同時に又子供相手の土いぢりの期が訪れて参ります。

春花壇の用意は既に昨秋播種もし、植付(秋植球根類、多年性草の株分したもの)もしておかなければ立派なものは見られないのであります。それ故本式の花壇さまでにはゆきませんが是に近いものをこれ迄に時々申し述べました材料や、我が校の圃場に栽培しまして極手軽に培養出来まして、しかも幼稚園なごのやうな場所にふさはしさうな草花を用ひまして、數種類の花壇を列舉し経験の少ないお若い方々の御参考に供したいと思ひます。

圖中には配植する草花名を二、三通り記入しておきますがもつともつよい配植を植込前に御案出願ひ度う存じます。

圖 1

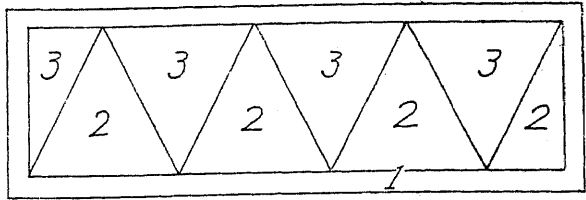


- 1、芝
- 2、プリムラボリ
- 3、同
- 1、芝
- 2、フランソギク
- 3、キンセンカ
- アンサス
- 赤 黄

圖1、2は小面積で幅の狭いものでありますから中に通路をこつてありません。

大 岩 金

圖 2

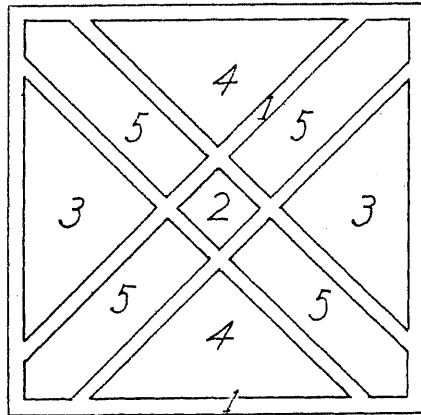


- 1、芝
 - 2、バンジー
 - 3、バンジー
 - 1、芝
 - 2、バンジー
 - 3、大輪デージー
- 紫
黄

幅は幼稚園等にありましては一米以内にして幅の両側からなるべく中央に手のミダく範囲にしておきたいと思ひます。

長い場合には適宜に區分して、通路をつければよいのであります。

圖 3



- 1、芝
 - 2、マーガレット
 - 3、ロベリア
 - 4、同白
 - 5、通路
- 黄

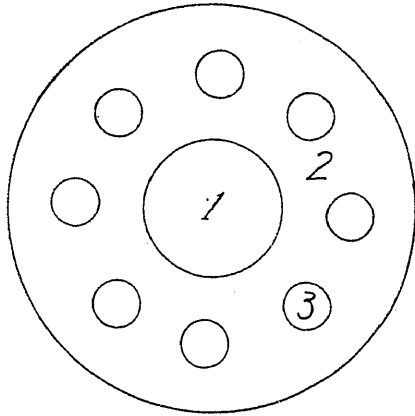
圖3、は稍々廣面積で中に通路をつけました。以上はいづれも直線式の簡單な花壇であります。

圖4、は曲線式の極簡單なもの。

圖5、6、は直曲混合の簡單なものであります。

圖

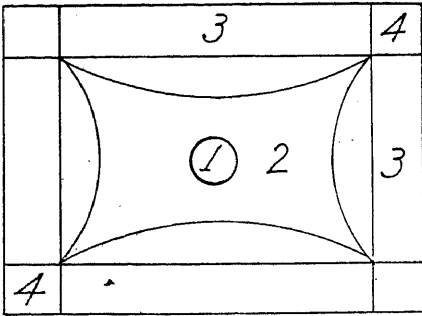
4



- 1、シネラリア
 2、芝
 3、アラセイトウ
- 1、バンジー
 2、デージー
 3、同
- 1、矢車草
 2、モッスフロックス
 3、金魚草
- 赤 白

圖

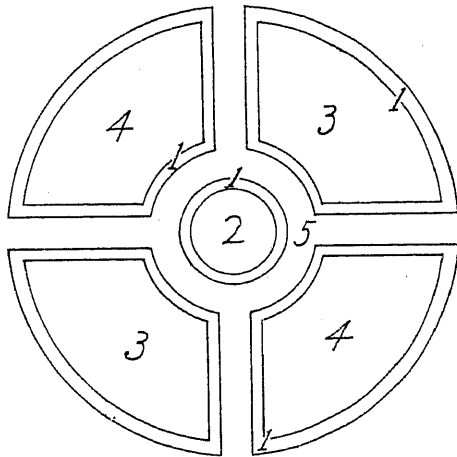
5



- 1、フランスギク
 2、キンギヨサウ
 3、フランスギク
 4、キンギヨサウ
- 1、フランスギク
 2、キンギヨサウ
 3、矢車草(矮性)
 4、同
- 淡紅 紫

圖

6



- 1、芝
 2、フランスギク
 3、矢車草(矮性)
 4、同
 5、通路
- 1、芝
 2、バンジー
 3、同
 4、同
 5、通路
- 1、芝
 2、フロックス
 3、矢車草(矮性)
 4、同
 5、通路
- 1、芝
 2、バンジー
 3、同
 4、同
 5、通路
- 淡紅 紫

次に花壇の計劃に關する注意を二、三述べる事に致します。そのうち位置の選定、日光、通風、排水等のことは前申したご思ひますので其等の選定は終つたものにして申し述べる事に致します。

一 形狀

是は既に外廓丈は出來上つて居りますものもありますれば是から設計なさいませう向もありません。新設する場合には他との關係、即ち建物との關係、或は周圍の背景等に依りまして種々の變化があるべきでありますから其等の實際に當りましてはその場に相應しい形を選定しなければなりません。

概して直線式のものゝは簡單に作られそのうちでも角の多いもの程構圖するにも複雑であり、栽植上にもなかなか困難を感じるであります。その上出來上りもあまりに複雑なものゝは雜然として案外引立たぬものであります。

次に曲線式のものゝは直線式のものより圓滑で溫和な氣分を表はすものでありますが是は構圖上にも栽植上にも一段の技術を要します。

それ故直線式から漸次曲線式に進み、尙その中間の曲直兩様を折衷する時は技術にも中間を得るものであります。

要するに初心者はなるべく簡單な形狀を選ぶ事が第一であります。そして面積に就ては、最初あまり大きくないものがよいと思ひます。美しい花壇に見える迄に植込するには略その面積程の豫備地を要するものでありますからそのつもりで豫備地、即ち苗床の面積を考慮して設計しなければなりません。又その手入をする人手も念頭において形狀、面積等を定むべきであります。

二 通路

外廓が出來ましたらその花壇の大小や、觀賞する人に依つて、適當の通路を設けなければなりません。

大きなものに數多くを要する事は申す迄もありませんが、觀賞する人が子供本位であるごすれば花壇の面積の割合に多く且つ廣くしておかなければなりません。

通路の最も簡單なものは土そのままに舗装しないでみますがあまり踏みにぢらない所にありましては芝を張りつめます時はやはらかみがあり、又後日模様替へする時に

も容易であります。

大規模の花壇でありますれば小砂利、コンクリート、木煉瓦など種々使用されます。

三 縁 植

外廓と通路が定まりましたらは大體の模様が出来上つたわけでありまして、この表はれた線に縁植をすればよいのであります。

この縁植の材料にも種々ありますが子供のためには第一危険性のないものを選ばなければなりません。

次に人手の経費の點を考へなければなりません。危険性のないものとしては芝や矮性の草花、及び灌木類であります。

後者の人手、経費をも考へます時は灌木類中の白丁花の類を挙げたいと思ひますけれども、是こても一時に多數を購入する時は相當の経費を要する事でありますから、漸次に自家で増殖させる事致しまして、さしあたり芝にしておいて後日灌木に取り替へてゆきたいと思ひます。

以上述べましたので大略花壇の外形は出来ますので次は中に植込む苗でありますが是は前にも申しましたやうに春花壇にありましては既に昨秋から用意出来て居る筈でありますから四月の植込時期までに充分の發育をこげるやう怠ない管理をして待つのであります。

次に重複の感がないでもありませんが、今春の花壇、及び夏秋の花壇を作りますに就て今月のうちにしておきたい仕事を簡単に記しておきませう。

一、花壇の設計。(紙上に縮尺した形狀を描き栽植の草花名、着色等を記入しておくこと)。

二、實際の場所に縮圖にならつて外廓に繩を張る。

三、繩の内部をよく耕耘しておく。(三〇糶内外の深さ)。出来得れば深耕の方がよい)。

この時土質が草花栽培に不適當なものであれば客土する。即ち粘土質の土壤には砂、又は堆肥、腐葉土のやうな有機質のものを入れ、砂土には粘土、又は堆肥、腐葉土等をすきこむのである。

四、基肥を入れておく。

耕耘と同時に基肥として油粕、魚肥のいづれか、又は半
半位に混合したもの、或は鶏糞の如きものをこの際働き込
んでおく。

尙土壌殺菌ミ加里肥料ミを兼ねた草木灰を入れておく事
も大切である。殊に芝は加里質の土質を好むものであるか
ら芝付けをするやうな場所には是非さうしておきたい。

五、春播苗床の準備。

六、秋植球根類に施肥

水仙の葉や漸く芽をのぞかせたヒヤシンス、チューリッ
プなぎの芽先にはかけないやうに。

* * *

三月に入つてから

霜柱もたゞなくなりましたら、そろ／＼芝の張付けにか
かつてよいのであります。小面積ならば張芝を買つて自家
で張ればよいと思ひますが、芝を大部分にするやうな場合
には芝の購入先で張付けもさせた方がよいと思ひますが芝
に就ては次回に今少し詳しく申したいと思ひます。

半ばすぎにもなりますミ段々に暖かい日が多くなり、秋

播きした苗床の苗のすくすく伸びてゆくのが目に見える
やうになります。摘心すべきものは心をこめ、雑草を抜
き、施肥もして苗の發育を充分に計らなければなりません。

又秋播草花の前年播きおかれてゐるもの、及び春播草花
の丈夫なものは今月の末頃播種してよいのであります。
(草花名は既に掲げたので省略する)。

◎ 梅

正 岡 子 規

日の本のやまこの國のはじまりし

其の日を今日ミ梅咲きにけり

童話 王女の猫の話

カレル・チャペック

中野好夫

七六

六

さて王女様は、スーザンが今頃はきつみ自分の生れた元のお家へ歸つてゐるだらうと、そういふ裁判所での話だつたものですから、早速御使をお婆さんの家へお出しになりました。使の者はそれこそ宙を飛ぶやうに、まるで馬の蹄から火花が出るほど馬を飛ばして参りました。するま成程、さうでせう、お婆さんのお家の門口に孫息子のジヨニーが一匹眞黒な猫を抱いて、チョコンと立つてゐるではありませんか。

『コレコレ、子供』、使の者は申しました。『王女様がそのスーザンとやらを御所望ぢや』。

ジヨニーはスーザンがそのまゝ連れてゆかれてしまふの

かと思ふに、胸も塞がるやうな思ひがしましたが、やつミ、『ぢやね、小父さん、僕が自分で王女様のところへ持つて行くから。いゝでせう』。と申しました。

そこでジヨニーはスーザンを大きな袋に入れて、大急ぎでお城へやつて参りました、そして王女様の前へ出て大聲で申しました。『サア、王女様、僕、猫を持つて來ましたよ、この猫が、王女様、あなたのスーザンだつて仰言るんですね、それぢやあなたが飼つてやつて下さい』。

そう言つてジヨニーは袋の口を開けてやりましたが、さうしたごときか、スーザンはあるの以前にお婆さんの籠から跳び出して來た時のやうに、元氣よく飛び出しては來ませんでした。可哀相に、スーザンは片方の足を跛をひいてゐる

ぢやありませんか。

『アラ、ほんまごうに妾のスーザンだか、妾にでよく分らないわ。でも、いゝこゝがあつてよ。バフィーノを呼んでみるわ。』

バフィーノ君(犬の名はスーザンの姿を見るこゝ、まるで狂人のやうに大喜びで勢よく尻尾を振り立てました。でも残念なこゝに、バフィーノ君がスーザンに對つて何んて言つたのか、それからスーザンがバフィーノの君にぎんなお話をしたか、それは誰一人解るものは御座いませんでした。

『あゝ、ほんまにスーザンだわ』。王女様は大喜びで仰言いました。『バフィーノが覺えてゐるんだもの。でも、ジヨニー、あんたほんまにいゝ子ね、スーザンを連れて來てくれて。御禮に何をして上げたらいゝかしら。あんたお金が欲しいの。』

ジヨニーは恥かしそうに眞赤になつて、コソコソミ申しました。『うゝん、僕お金なんぞいらぬや。お金ならね、お祖母さんがそりやドツサリ持つてるよ、さうしていゝか、

わからなくらい持つてるんだもの。』

『ぢや——つこ、ぢやあ、お菓子が欲しいの、あんた。』
王女様は御訊きになりました。

『ううん』、ジヨニーは答へました。『菓子パンなんて、僕、いくらだつてもらへるよ。』

『ぢや、あのう——』王女様は暫らく考へておいでになりましたが、『妾の持つてる玩具の中から何んでもいゝからあんたのいゝもの持つて行かない。』

『いゝや、いらぬや』。ジヨニーは急いで両手を振つて申しました。『ネ、王女様、僕はジャックナイフを持つてるんだよ、だから何んでも好きなものを自分でこさへられるんだもの。』

到頭王女様はもう言ひ出すものが無くなつておしまひになりました。そこで仕方なしに、『ぢやあね、ジヨニー、あんたの欲しいものを何んでも言つてくれない。』

『そうだなあ……僕……』ジヨニーはまるで罌粟の花のやうに眞赤になつて、物もはつきり言へませんでした。

『ネ、言つて御覽たら、ジヨニー』

『僕、やつぱり言へないや』。ジヨニーはもう耳の側まで眞赤になつて、オドオドしながら申しました。

するま今度は王女様の方が芍薬の花のやうに眞赤になつて、仰言いました。『まあ、あんた何故それが言へないの。』

『だつて……可哀相にジヨニーはうんうん唸るやうに申しました。』王女様は、きつこ下さらないうに決つてるんだもの。』

王女様はまるで薔薇の花のやうに眞赤になつて、ひびくモチモチしないから仰言いました。『ぢや、もし妾が上げたらごう。』

それでもジヨニーは相變らず頭を左右に振りながら、『いや、下さるもんか。』

『ぢやほんきに上げたらごう。』

『そんなことあるもんか』。ジヨニーは悲しさうに申しました。『僕、王子様ぢやないんだもの。』

『ぢやあネ、ジヨニー、いゝから、一寸あつち向いてるない』。ミ、王女様はそう仰言つて、ジヨニーが向ふを向いた間に、そつこ忍び足で近づくミ、ジヨニーの一方の頬

つぺたに目にも止まらぬ早さで軽く一つキスをなさいました。ジヨニーがあはてゝ振り返つた時には王女様はもう素早く隅の方へ馳けて行つて、スーザンを兩手に抱き上げるミ、そのまゝやはらかい毛並みの中へ顔を埋めておしまひになりました。

ジヨニーはジヨニーで、すつかり嬉しさうに眞赤になつて申しました。『有難う、王女様、さようなら、僕、歸つて來ます。』

『ジヨニー王女様はソーツミ小聲で仰言いました。』あなたの欲しいつても、これだつたのね。』

『うん、そうなんだ』。ジヨニーは熱心に申しました。が丁度その時、王女様の侍女達がゾロゾロミお部屋へ入つて参りましたので、ジヨニーはなんミかして早く逃げ出してしまひたいミ、四邊を見廻はしました。

まるで天にでも登るやうな嬉しさで、ジヨニーは一目散にお家へ馳けて歸つて参りました。たゞ一度だけ、それは森の中で大きな樹の皮から可愛い小さなボートを伐りさる間、ジヨニーは休みましたが、出來上つたボートを衣襲の

中へ入れるさ、又しても一目散にお家へ歸つて参りました。

家へ歸つてゐるさ、オヤ、あそこに、ホラ、戸口にスー

今スーザンをお城に連れて行つたばかりだのになあ。

「あゝ、あゝ、ジヨニーや」。お祖母さんは静かに申しま

した。『それが猫の性質うまれつきなんだよ、たごへきんなに遠くで

あつても、チャンミ生れた場所へ歸つて来るのが。明日になつたら、お前も一度お城へ連れて行つてやるがいよ。』

翌る朝になるさ、ジヨニーは又してもスーザンを抱いてお城へ馳けて参りました。『王女様』、ジヨニーは苦しさうに息を切らしながら申しました。『僕、またスーザンを連れて來ました。』

ほんまにいけない奴だ、王女様の所から脱け出して、チャンミ僕の家へ歸つてきましたよ。』

『ほんまにお前はいたづら者ね。王女様はスーザンの頭を撫でながら仰言ひました。』

『まるで風みたいに逃げて行つちまふなん

ザンがチヨコンミ坐つて一方の悪い方の足で一心不亂に毛

並みのお洗濯をしてゐるではありませんか。

『お祖母さん、ジヨニーは思はず叫び出しました。』僕、

するさその時ジヨニーが突然申しました。『王女様はこのボート欲しかありませんか。』

『エ、妾に頂戴』、王女様は仰言ひました。『それから今日はスーザンの代りに何を上げようかしら』。

『僕、知らないや』。はや頭の前まで真赤になつてジヨニーが申しました。

『ね、言つて頂戴！』王女様はなほ一層真赤になつてソッソ小聲で仰言いました。

『いやだあ』。

『ねえ、言つて頂戴つたら……』

『いやだなあ』。

王女様は段々首垂れてしまつて、指先でモジモジその小さいポートを玩具にしていらつしやいましたが、『ちや、昨日と同じものが欲しいのね、あんた』、

『うん、そうだなあ……』ジヨニーは思はずそう答へてしまひました。そしてそれを貰ふに、またインソイツミ歸つて参りました。たゞ今日も、歸り途で森の柳の樹のところで一寸休んで、今度は可愛らしい笛をこしらへました。

さて家へ歸つてみるに、スーザンは果してチャンミ戸口に坐つて頻りに前足で口鬚のお化粧をして居ります。『お

祖母さん』、ジヨニーは大聲で申しました。『またスーザンが歸つてるよ』。

『そうかね、ちやあ捕へておいて、明日はまたお城へ連れて行つてやるがいよ。そのうちにはお城に馴れるやうになるだらうからね』。

そこで翌る朝になるに、ジヨニーは又してもスーザンを袋に入れてお城へやつて参りました。『王女様、王女様』、彼は例のやうにはじめました。『またスーザンが歸つて来ました』。

でも今日は何故だか王女様は不機嫌さうにブンミ口を尖らして、物一つ仰言いませんでした。

『ね、王女様』、ジヨニーは思ひ切つて申しました。『僕、昨日こんな笛をこさへたんですが……』

『見せて御覽』、王女様は相變らずブンミ口を尖ながらかしたまゝ仰言いました。ジヨニーはジーツミ王女様の顔をうかがつて居りましたが、さうして今日は王女様が機嫌を悪くしてゐらつしやるのか、不思議で不思議でなりません。でした。

がその時王女様は笛をきつて一吹きお吹きになります
ミ、それはそれはよい音をして鳴りました。そこで王女様
は、『まあ、あんたは随分いけないのね。チャンミ知つて
るわ、お駄賃にまた昨日ミ同んなじやうにしてもらはふミ
思つて、わざつミスーズンミ一緒になつて悪戯してゐるの
よ』。

ジヨニーはすつかり悲しくなつてしまひました。そして
帽子をきつて、淋しさうに申しました。『あゝ、王女様が
さう仰言るのなら、僕仕方がないや。だけミ僕、もう二度
ミ王女様のミころへは來ませんからね』。

そう言つてジヨニーは、それはそれは悲しい思ひで、ト
ポトボミ家へ歸つて参りました。歸つて見るミ、——ホ
ラ、またしてもスーズンが戸口に坐つて居ります、そして
今日は牛乳をお腹一杯にいたゞいて、さも氣持よささうに
身體中をペロペロなめて居ります。ジヨニーはツミミ行つ
て、スーズンミ竝んで腰を下すミ、膝の上に抱き上げたま
ま、じつミいつまでも黙つて坐つて居りました。

だがやがて、馬に乗つた王様のお使ひが飛ぶやうに馳け

つけて参りました。『コレコレ、子供、王様の御命令だ、
すぐさまスーズンをお城へ連れて参れ』。

『駄目ですよ、小父さん』。ジヨニーは申しました。『猫
つてものはね、自分の生れたお家へきつミ歸つて來るもん
なんですよ』。

『だが、コレ、子供。王女様の仰言るには、その方は毎
日スーズンをお城へ連れ参つてよいミの御言葉ぢや』。

『だけミもね、小父さん、僕は王女様にもう二度ミ來な
いつて、そう言つちまつたんだもの』。ジヨニーは首を振
りながら申しました。

丁度その時でした、戸口からお祖母さんが出て参りまし
た。そして『これはこれは、お使ひのお方、犬ミいふもの
はな、主人につくもので御座いますが、猫は家を離れない
もので御座いますよ。だからスーズンも決してこの家を忘
れるこゝは御座いせんから、ハイハイ』。

それを聞くミ、使ひの者はヒラリミ馬に跳び乗つて、ま
た一散にお城へ歸つて行きました。するミ、サア翌る日に
なるミ、百頭立のそれはそれは立派な大きな馬車が一臺、

ピタリツミお祖母さんのお家の前に止まりました。そして御者がツカヅカミ馬車から降りるミ、四邊近所に響きわたるやうな大聲で申しました。「コレコレ、老婆、王様の御命令ぢや、猫がごうしてもその家を忘れないものであるからには、家もろごも、いやついでに其方竝に孫息子ジヨニもろごも、スーザンをば城へ連れて参れミの御命令ぢや。其方共の家は造作もなく御城のお庭に持ち運び出來やうからミの王様の思召であるぞ」。

そう言つたかと思ふミ、忽ち澤山の人がドヤドヤやつて来て、お祖母さんのお家をそのまゝそつくり馬車の中に積んでしまひました。御者はやがて鞭をピシリツミ一つ鳴らして、ソラ曳け!!』といふ一聲ミ一緒に、百頭の馬が一度に曳き出します、そして馬車はドンドンお城の方へ近づいて参ります。馬車の上では、お家の戸口にお祖母さんジヨニミ、それからスーザンが坐つて居りましたが、その時ふごお祖母さんは、あの何時ぞやお城で、太后様がスーザンが未來の王様をお城へお連れしてくる、しかもその王様はお家ジミそつくりお出でになるんだといふ夢を御覽にな

つたごを思ひ出しました。ほんミにそれは突然ふごお祖母さんの心の中にヒヨイミ浮んだのですが、お祖母さんはそのまゝそのごは一言も申しませんでした。

さて、いよいよお城へ到着致しますミ、みんなの歓迎ぶりミいつたら、それは大變なものでありました。お家は早速御殿のお庭の中に建てられるし、なにしろスーザンはお家が忘れられないのですから、もう今では逃げ出すごもありませんでした。そして以前のお家の時ミ同じやうに、お祖母さんジヨニミ三人仲よく暮すごになりました。王女様はスーザンミお遊びになりにたくなりますミ、いつでもお祖母さんのお家までスーザンに逢ひにいらつしやいます。それに王女様はなにしろスーザンが大好きでいらつしやいますから、もう三日に一度はきつミ御見えになりました。そしてジヨニミも大の大的の仲好しにおなりになりましたさ。

さて、それから、みんなごうなりましたかしら、でもそれはもう私のこのお話ではありません。たゞ若しジヨニミが大きくなつて、ほんミにその國の王様になつたミした

ら、よろしいか、皆さん、それはスーザンが居たからでもなければ、またあの王女様ミ大の仲好しであつたからでもありません、それはジョニーが大きくなつて、國中のみんなのためにそれはそれは男らしい、立派な行ひを澤山にしたからでありました。(をほり)

カレル・チャベックに就いて

カレル・チャベックは現存するチェコスロヴキヤの作家である。彼は決して謂ふところの童話作家ではない、童話はいはゞ彼の餘技であるかもしれない。彼の名はチェコ一流の作家として今日世界的の名聲を獲てゐるものであるが、戯曲家としての彼の存在はわが國でもすでに十年前から紹介されてゐる。戯曲家、小説家、隨筆家、演出者、スケッチ畫家、彼はおそろしく器用な男であるらしいが、童話への進出は比較的新しいので、先般來譯出した一篇も一九三二年出版された最近の童話集の巻頭的一篇である。なほ外にも彼には小犬の生ひ立ちを書いた長篇少年讀物『ダシエンカ』といふのがあるが、これはたしか邦譯もどこか

らか出て居るはずである。

元來チャベックの作品は小説にしる戯曲にしる、いつも極めて豊かな空想的要素を、物の見方がどんな場合でも多少の餘裕を残した人間的なユーモアによつて特長つけられ、またその點で現代の文學に特異な位置を占めてゐるのであるが、それらの特質はそのまゝ彼の童話の世界に持ち込まれて居るさいつてよからう。譯者は決して童話研究家でもなんでもないので、餘り口幅たいこは無論言へないが、チャベックの童話が従來のお伽話の紋切型、フェアリーミ小人ミ古風な魔法の世界を捨て、吾々の現代の生活の中にお伽話の豊かな空想の世界を見出してゐることは注目に値すると思ふ。譯出しなかつたが、彼は浮浪人の中にも、郵便配達夫の中にも、お巡査さんの生活の中にもお伽話を見出すところの出来る人間なのである。彼の心憎い點は一見全く寂莫たる現代生活の極めて殺風景な瑣末事の中に思はず吾々を微笑させるやうな明朗な空想の世界を導き入られてくれることである。彼の最も嫌ひなものは、穿き違へた人情ミ涙のセンチメンタリズムである。その意味で彼の

童話は一部の非難を甘受しなければならぬかもしれないが、當世流行するところの、あの俗悪極まる功利的、勸善懲惡主義、おしつけがましい不自然な人情美談だけは子供の明らかな頭に印象させてほしくないものである。西歐社會は風俗習慣の相異から、彼の童話のごときもそのまま日本の子供に傳へることは如何かご考へられる節も無論あらうと思ふが、一度指導者の頭を通して適當な取扱ひを受ける時には、そこに何物か吾々に新しい暗示を與へてくれるやうに思へる彼のお伽話の世界ではあるまいか、これが素人の愚見である。

二月の窓から

雪どけと霜どけでお山の上の大銀杏樹も窓から遙かに仰ぐこのころ。

寒い朝、霜柱が二寸もある霜柱がまつ白にお庭一面です。さつくさつくとふんで三四寸にのびた水仙の芽を見に行きます、まごこのおうちへのおみやげはきらきら光るぼつこりとれた水菓子です。

* * *

一年中で一番心落付く月だと誰かが言つた二月をやつぱり心せく過してぬます恥しいことですけれど。

代りばんに風邪を引いたりひかれたりしてぬまじたがもう大丈夫です。

お雞様のお仕度、九年度のラストへビー、おいそがしいでせう皆様、どうぞお大事に。

(編輯部)

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は本年三月左の廿四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それぐ適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

姓名	出身學校	生年	月	日	姓名	出身學校	生年	月	日
井田 淑子	佐渡相川高等女學校	大正五年七月十二日			坂田美寶子	釜山公立高等女學校	大正五年八月一日		
伊佐山 靜子	仁川公立高等女學校	大正六年九月十六日			末光トミ子	大分縣立第一高等女學校	大正五年三月九日		
磯野 泰子	縣立和歌山高等女學校	大正五年十一月十二日			鈴木 貞子	愛知縣立第一高等女學校	大正六年一月一日		
大岡 薫	東京府立第二高等女學校	大正五年八月十五日			田中 秀子	東京府立第五高等女學校	大正五年十月十二日		
川上 須賀	東京府立第五高等女學校	大正六年二月五日			田中 ゆき	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年十二月二十八日		
川野 留	東京私立櫻蔭高等女學校	大正六年一月三日			竹内喜美子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年八月二十五日		
北澤 淑子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年十月十七日			谷川 玲子	福岡縣立門司高等女學校	大正七年一月三日		
橘川 ちよ	東京私立精華高等女學校	大正六年一月十二日			戸川 貞子	東京府立第三高等女學校	大正四年七月二十九日		
工藤 茂子	東京府立第五高等女學校	大正六年二月二十四日			松本 菊野	鎌倉高等女學校	大正三年十一月二十日		
葛岡千枝子	東京市立忍岡高等女學校	大正五年十一月十日			矢島 八重	滋賀縣立大津高等女學校	大正五年四月二十六日		
後藤富美子	東京私立櫻蔭高等女學校	大正五年六月九日			矢田伊豆江	女子學習院	大正三年六月八日		
齋藤 保	福島縣立會津高等女學校	大正四年七月二十三日			山中 勝子	私立東京高等女學校	大正五年八月二十二日		

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

定價

一ヶ月分	金參拾五錢
冊送料	壹錢
半年分	金貳圓拾錢
冊送料	共
一年分	金四圓拾錢
冊送料	共
拾貳冊送	料共

特等面一頁二等面一頁
 金參拾圓金貳拾圓
 一、等面一頁一頁以下
 金貳拾五圓御斷
 神田區駿河臺ノ三品田
 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割にて御拂込下さい)
 昭和十年二月十五日印刷
 昭和十年二月十五日發行
 幼兒の教育 第三十五卷 第二號

不許複製 轉載

發行所 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 柴山則常
 倉橋惣三
 杏林舍

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大好評
東京女子高等 前附屬幼稚園主事
師範學校教授 現附屬小學校主事
堀七藏先生著
四六判四一六頁美木
口繪寫眞十數葉入
價二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育の諸問題

一・幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針

本書は幼稚園經營並に保育實際に關する。(一)理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につきて長く幼稚園主事たりし堀先生が現に同一校の小學校主事たる地位より懇説詳述されし絶對無比の名著である。

二・小學校との連絡問題についての詳述は大特色

(一)小學校入學の準備(二)入學檢定の受け方(三)入學檢定の所感(四)入學檢定の結果(五)小學校入學に關しての注意(六)小學校入學後の考察等についての詳述は最も權威ある本書のみの特色である。

三・理論的見地に立ち保育實際に理論付けらる

兎角母の愛の如く嬌々しさのみに陥り易き保育實際に父性愛の或る強さをも加へたる。明晰なる理論を以て、保育實際に理論付け且其の進むべき方向を明示する。此點より見て本書は又稀なる權威書である。

東京女高師主事堀七藏先生著

四六判三百餘頁 定價二圓五十錢
挿繪多數交平易 送料十六錢

我が兒の科學教育

▲新科學教育の根本問題科學高潮時代に忘れられた而も根本的重要問題を解決指示する。
▲新家庭教育の中心問題新家庭教育は妨げ問題等に止まらず須く時代人ミして活躍し得る基を與へねばならぬ。
▲母姊の良師・幼稚園保母自覺ある母姊・幼稚園保母必讀の最良書である。

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區保町一丁目六十七番地
振替東京一〇三〇七番

お子様の満悦百%の手技用品と表簿類

◇菱形——赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙臺紙に、チリメン摺紙で難を折つて貼ります。

摺紙 大15cm×15cm 一〇〇枚包 金一圓五十錢
 摺紙 小10cm×10cm 一〇〇枚包 金三十錢

◇屏風形——難祭り又はお人形遊び用、金屏風の華麗なもの、これに貼紙の櫻その他を以てお子様方に美事な意匠ができます。

◇繪馬額——厚紙で作つた繪馬額、クレオン貼紙等でお子様御自身がいろ／＼意匠する大歡迎の手技用品。

◇保育證書——厚い堅緻な上質紙に文字を墨、周圍輪廓を金刷、そして姓名年月日を書き入れるやうになつてゐます。御園名入のものは二月末日迄に御註文、無名ならば何枚にても即時お間に合ひます。

御園名入の保育證書
 二月末日迄
 に御註文下さいませ

一〇〇枚園名入 金 四 圓
 五〇枚園名入 金二圓五十錢
 無名一枚 金 五 錢

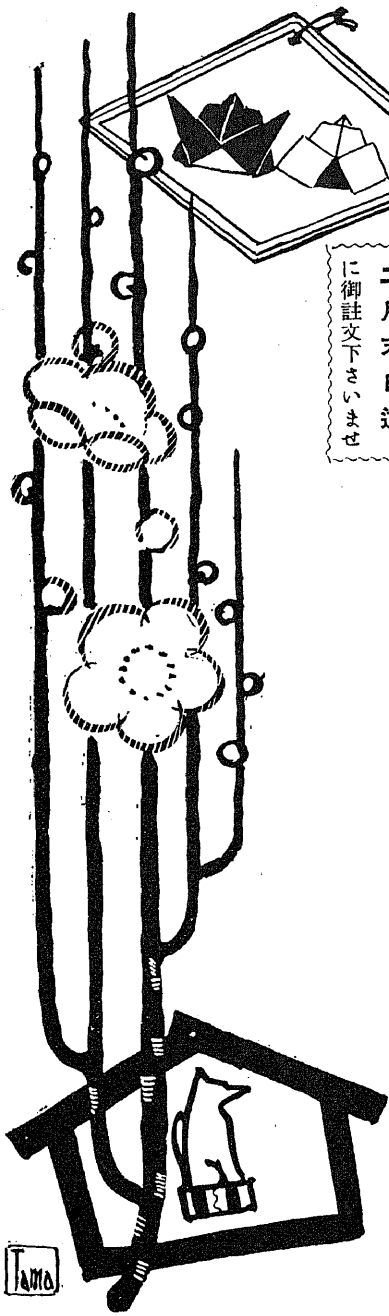
◇出席簿用紙——一〇〇枚 全 一 圓

◇豫定案日誌——一冊(二年分) 金一圓二十錢

◇在籍簿用紙——一〇〇枚 金八十錢

◇月謝袋——一〇〇枚 金一圓四十錢

◇出席カード——(十二枚一組) 一人一ヶ月分 金 十 錢



昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回 十五日發行)
 昭和十年二月十三日印刷納本
 昭和十年二月十五日發行

定價三十五錢

株式會社 三井物産

東京 神田區 神保町 二ノ四 電話 九三二八(33)
 大阪 區 東區 後備町 五ノ二 電話 六二九一(21)
 東京 區 東區 神田區 神保町 二ノ四 電話 九三二八(33)
 大阪 區 東區 後備町 五ノ二 電話 六二九一(21)